

豊田工業高等専門学校の
自己点検・評価報告書
(No. 3 平成30年度)

令和元年11月
独立行政法人国立高等専門学校機構
豊田工業高等専門学校

目次

1. 教育理念・目標に関すること（担当：総務主事）	1
2. 教育活動に関すること	2
2.1 機械工学科（担当：機械工学科）	2
2.2 電気・電子システム工学科（担当：電気・電子システム工学科）	7
2.3 情報工学科（担当：情報工学科）	9
2.4 環境都市工学科（担当：環境都市工学科）	12
2.5 建築学科（担当：建築学科）	17
2.6 一般学科（担当：一般学科長）	21
3. 学生生活に関すること	23
3.1 進路に関わる事項（本科担当：教務主事、専攻科担当：専攻科長）	23
3.2 生活指導に関わる事項（担当：学生主事）	24
3.3 学生の健康に関わる事項（担当：学生主事）	25
3.4 クラブ活動に関わる事項（担当：学生主事）	25
3.5 キャリア教育：に関わる事項（担当：キャリア教育支援室長）	27
3.6 各種資格取得者数（本科担当：教務主事）	29
4. 学生寮（教育寮）に関すること（担当：寮務主事）	31
4.1 現状	31
4.2 今後の予定	33
5. 研究活動に関することに関すること（担当：総務主事）	34
5.1 外部資金獲得の促進に係る取り組み	34
5.2 産業界との技術マッチングの推進	34
5.3 研究成果の知的資産化	35
5.4 外部資金の獲得	35
6. 国際交流に関すること	36
6.1 海外からの留学生（担当：国際交流委員長）	36
6.2 留学へ行く学生（担当：国際交流委員長）	36
6.3 海外インターンシップ（担当：専攻科長）	37
7. 社会との連携に関すること（担当：総務主事）	38
7.1 公開講座・出前講座の実施	38
7.2 産学連携実践セミナーの実施	38
7.3 産学連携によるリーダー技術者養成講座「ものづくり一気通観エンジニアの養成」の企画・運営	38
7.4 産学連携による社会人向け夜間講座「製造技術者育成講座（基礎）」の開講	39
7.5 産学連携による社会人向け研究会「IoT研究会」の企画・運営	39
7.6 中山間地活性化プロジェクト「ドミタウン」	39
8. 学校運営に関すること	40
8.1 本科入学者の質・数の確保（担当：教務主事）	40

8.2	専攻科入学者の質・数の確保（担当：専攻科長）	42
8.3	教員の質の確保	42
8.5	地域におけるネットワーク形成（担当：総務主事）	47
9.	将来計画に関すること（担当：総務主事ほか3主事）	47
10.	施設整備に関すること（担当：施設環境整備委員長）	48
10.1	現状	48
10.2	改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定	48
11.	その他	48

1. 教育理念・目標に関すること（担当：総務主事）

平成 30 年度においては、教育理念・教育目標の見直しは行っていない。今後、高専機構の第 4 期中期計画が策定された時点で、その中期計画との整合性を確認し、必要に応じて、見直しを図っていく。

2. 教育活動に関すること

2.1 機械工学科（担当：機械工学科）

1) 現状

機械工学科の学習教育目標は、本校の5つの教育目標を達成できるように、(A)社会との関連、(B)基礎学力、(C)問題解決能力、(D)コミュニケーション能力、および(E)責任・倫理の5つのキーワードで示される分野において、その教育内容にふさわしい科目を配当し、成績を評価することで達成度を確認している。現在、機械工学科で使用している目標達成度自己評価シートを表2.1-1に示す。

機械工学科では、JABEE受審における指摘をきっかけに、平成26年度から今後の教育改善にも役立つものとするため、修得できたか否かだけでなく、本校の成績評価ABCも記載でき、細かな自己評価ができる形式に変更した。

まず、本科卒業生に対して考察を試みる。卒業学生数は38名であり、すべての学生の動向を把握するため、この中からGPAで判定したクラス順位で最上位から最下位までほぼ均等に7名をピックアップし（外国人留学生を除く）、評価シートを用いてデータ化した。とりまとめた結果を表2.1-2に示す。機械工学科の5つの教育目標はそれぞれさらに細分化して設定されているが、大局的な把握をするため、目標毎にまとめて評価することができる。表の教育目標欄の括弧内の数値が必修得科目数である。表の左側で、教育目標毎に学生が修得した科目数の年毎の積み上げの様子がわかる。一方、表の右側で、修得できた科目の成績はどうであったのかがわかる。

表の左側のデータから、一部の学生を除き、教育目標の分野の偏りもなく、成績の順位に関わらず、修得するペースも無理なくバランス良く修得できている様子が見て取れる。これによって、機械工学科のカリキュラム配置がバランスよく配置され、教育目標に沿う様に教育できていると判断できる。右側の成績内容から、成績の上位者は修得した科目の評価が高いことがわかるが、中位から低位の学生に比べ修得単位数に差はみられない。一方、中位から低位の学生は、もちろん必要科目数は修得しているが、B評価、C評価の科目数が上位の学生に比べて多くなっていることがわかる。また、成績の良い学生で自分の興味のある科目のみを修得する傾向もあり、これらの結果は、今後の教育改善活動の参考になると考える。

次に、専攻科学生卒業生の評価を試みる。表2.1-3は、平成30年度専攻科卒業生5名の評価シートから、本科と同様にしてデータ化したものである。なお、評価・分析しやすいように本科と同様GPAによる成績順に配置してある。本科と同様、専攻科学生においても必要な科目の修得状況は、分野によって特別の偏りもなく、学年進行によって目標達成に向かってバランス良く修得できている様子が見て取れる。また、本科の場合と同様以上に、専攻科学生においても成績順に関係なく修得科目数の違いがほとんど見られないことがわかる。さらに修得した成績評価のABCの割合からも、専攻科学生間の学力差が本科ほど大きくないこと、および本科では上位～中位相当の学力レベルであることもわかる。ただし、これらの結果から特別な問題点は見つけられない。しばらくは経年変化を見て、評価シートからどのような情報が読み取れるのかの分析方法を含めて、問題点を探っていきたい。

表 2.1-1 機械工学科の目標達成度自己評価シート

JABEE機械工学プログラム受講生による目標達成度自己評価シート

出席番号	第4	第5	第1	第2
------	----	----	----	----

学期末の成績通知の際に、下記の記入例にしたがって記載し、修了要件を満たした場合には「修了要件」欄の「合」に○を記入すること

氏名

記入例	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										経年半年	評価	修了要件	評価の集積				第4	第5	第1	第2		
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j				A	B	C	D						
(D)コミュニケーション能力	日本語基礎英語IIA ● 修得した科目の「O」を塗りつぶす	●				●							第4・第5・第1・第2	A・B・C	人文科学 社会科学 障害者科目 目録から 12科目	A: 9 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 C: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	-1	-2	0	1				
(D)適切な日本語を会話や文章で駆使できるとともに、英語による基本的コミュニケーションができる。	英語I B 英語II A 英語II B 日本語表現 総合英語I 総合英語II 総合英語 総合英語表現 総合英語A 総合英語B 総合英語C	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	6科目	A: 9 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 C: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15									
(D)口頭、文書、グラフ、図を用いて自分の考えを効果的に伝えることができる。	総合英語A 総合英語B 総合英語C 総合英語表現 総合英語A 総合英語B 総合英語C	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	6科目	A: 9 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 C: 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15									
(A)社会との関連	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										経年半年	評価	修了要件	評価の集積				第4	第5	第1	第2		
(A1)社会の工学的基盤を認識でき、それが機械工学とどのように関連しているかを理解している。	校外学習 インターンシップ 企業実習 企業実習II 企業実習III	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	2科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(A2)経済が、社会・文化との関わりの中でどのように発展してきたか理解している。	経済学 経営学 社会学	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	2科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(B)基礎学力	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										経年半年	評価	修了要件	評価の集積				第4	第5	第1	第2		
(B1)豊富な実習・実習に裏付けられた基礎学力を身に付ける。	工学実験A 工学実験B 電子機械工学特別実習	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	3科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(B2-1)数学に関する知識とその工学的応用力の修得。	微分積分学I 微分積分学II 線形代数 解析学I 解析学II 複素関数論 数値解析 応用微分方程式 応用線形代数 応用微分方程式II 物理特論A 物理特論B 近代物理学 化学特論A 化学特論B 解析力学 応用熱力学 原子物理学 生物化学	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	11科目	A: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 B: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 C: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20									
(B2-2)物理に関する知識とその工学的応用力の修得。	近代物理学 化学特論A 化学特論B 解析力学 応用熱力学 原子物理学 生物化学	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	1科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(B2-3)情報技術に関する知識とその工学的応用力の修得。	情報工学I 情報工学II 応用情報システム 情報システム工学	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	1科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(C)問題解決能力	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										経年半年	評価	修了要件	評価の集積				第4	第5	第1	第2		
(C1)問題を発見し、それについて適切な実験を計画し、必要な結果を導くことができる。	卒業研究 特別研究I 特別研究II	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	3科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(C2-1)「材料と構造」に関する専門知識の修得。	材料力学IIA 材料力学IIB 材料力学III 機械工学 応用材料工学 応用材料工学II	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	2科目	A: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 B: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 C: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
(C2-2)「運動と振動」に関する専門知識の修得。	機械力学 機械振動学 熱力学IA 熱力学IB 熱力学II 水力学IA 水力学IB 水力学II 応用力学 応用力学II	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	1科目	A: 1 2 3 4 5 B: 1 2 3 4 5 C: 1 2 3 4 5									
(C2-3)「エネルギーと流れ」に関する専門知識の修得。	水力学IA 水力学IB 水力学II 応用力学 応用力学II	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	3科目	A: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 B: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 C: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
(C2-4)「制御と計測・制御」に関する専門知識の修得。	制御工学A 制御工学B 計測工学 基礎制御工学A 基礎制御工学B 制御工学 応用制御工学 応用制御工学II 応用制御工学III 応用制御工学IV 応用制御工学V 応用制御工学VI	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	2科目	A: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 B: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 C: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
(C2-5)「機械と設計・生産・システム」に関する専門知識の修得。	機械設計基礎IIA 機械設計基礎IIB 機械設計基礎III 応用機械工学 応用機械工学II 応用機械工学III 応用機械工学IV 応用機械工学V 応用機械工学VI 応用機械工学VII 応用機械工学VIII	○				○						第4・第5・第1・第2	A・B・C	3科目	A: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 B: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 C: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									

表 2.1-2 機械工学科本科卒業生の成績まとめ

H30年度機械工学科本科卒業生 教育目標別成績(成績順に均等に代表選定)

教育目標	学生	修得学年				修得 科目数	達成度 %	評価		
		本4	本5	専1	専2			A	B	C
A 社会との 関連 (2科目)	a	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	b	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	c	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	d	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	e	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	f	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	g	1	0	-	-	1	50	1	0	0
B 基礎学力 (16科目)	a	8	1	-	-	9	56	8	1	0
	b	5	1	-	-	6	38	5	1	0
	c	8	1	-	-	9	56	4	5	0
	d	8	1	-	-	9	56	3	5	1
	e	8	0	-	-	8	50	0	5	3
	f	9	1	-	-	10	63	2	3	5
	g	6	2	-	-	8	50	1	6	1
C 問題解決 能力 (16科目)	a	11	5	-	-	16	100	15	0	1
	b	11	9	-	-	20	125	15	5	0
	c	10	5	-	-	15	94	8	4	3
	d	12	5	-	-	17	106	8	7	2
	e	7	6	-	-	13	81	3	3	7
	f	10	7	-	-	17	106	4	2	11
	g	9	7	-	-	16	100	5	4	7
D コミュニケー ション能力 (18科目)	a	9	2	-	-	11	61	11	0	0
	b	8	1	-	-	9	50	8	0	1
	c	7	2	-	-	9	50	6	3	0
	d	9	2	-	-	11	61	8	2	1
	e	9	1	-	-	10	56	6	4	0
	f	11	1	-	-	12	67	3	3	6
	g	8	2	-	-	10	56	3	3	4
E 責任・倫理 (12科目)	a	7	1	-	-	8	67	8	0	0
	b	6	0	-	-	6	50	6	0	0
	c	5	1	-	-	6	50	3	3	0
	d	7	1	-	-	8	67	7	0	1
	e	7	0	-	-	7	58	5	2	0
	f	9	0	-	-	9	75	1	2	6
	g	6	1	-	-	7	58	2	2	3

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

新しい成績評価シートを使用し始めて5年目である。現在のところ特に目立った問題点は見当たらないが、しばらくデータを取り続け、経年変化に注目して、改善点を見つけていきたい。また、学生によって履修する単位にバラツキがあり、履修の有無についてヒアリング等を行い、学科カリキュラム編成や授業内容に反映していきたい。

表 2.1-3 専攻科（電子機械工学専攻修了生）の成績まとめ

H30年度専攻科電子機械工学専攻修了生(機械工学プログラム)教育目標別成績(成績順)

教育目標	学生	修得学年				修得 科目数	達成度 %	評価		
		本4	本5	専1	専2			A	B	C
A 社会との 関連 (2科目)	a	1	0	1	0	2	100	2	0	0
	b	1	0	1	1	3	150	2	1	0
	c	1	0	1	1	3	150	3	0	0
	d	1	0	1	0	2	100	1	1	0
	e	1	0	1	0	2	100	1	1	0
B 基礎学力 (16科目)	a	8	3	5	2	18	113	18	0	0
	b	8	3	5	7	23	144	20	2	1
	c	7	3	5	2	17	106	14	3	0
	d	8	3	5	3	19	119	14	4	1
	e	8	1	5	2	16	100	9	7	0
C 問題解決 能力 (16科目)	a	12	9	5	5	31	194	31	0	0
	b	12	11	5	7	35	219	32	2	1
	c	12	10	4	3	29	181	24	3	2
	d	12	9	5	5	31	194	21	6	4
	e	11	8	4	6	29	181	19	5	5
D コミュニケー ション能力 (18科目)	a	8	3	7	3	21	117	21	0	0
	b	9	5	7	5	26	144	24	2	0
	c	8	2	7	3	20	111	19	1	0
	d	10	2	7	3	22	122	18	3	1
	e	8	3	7	3	21	117	20	1	0
E 責任・倫理 (12科目)	a	6	2	6	1	15	125	15	0	0
	b	7	4	6	3	20	167	18	2	0
	c	6	1	6	1	14	117	13	1	0
	d	8	1	6	1	16	133	13	2	1
	e	6	2	6	1	15	125	14	1	0

2.2 電気・電子システム工学科（担当：電気・電子システム工学科）

1) 現状

本学科の評価結果を説明する。本学科の JABEE「学習・教育到達目標と評価方法及び評価基準」を用いて5年卒業時達成度目標を表2.2のように設定して評価した結果、平成30年度は同表のようになった。平成30年度の卒業生は41名である。全体の達成度（総合）について、卒業時達成度は93%となった。達成度の数値目標を72%とおき、目標の本科達成度はそれを大幅に上回り、目標は達成できたと考える。

表2.2 学習・教育到達目標及び達成度

5年卒業時達成度目標	達成度 (%)	達成度数値目標 (%)
A1 または A2 のどちらかを達成している。	100.0	50.0
A3 ～A6 をすべて達成している。	100.0	100.0
B1 または B2 のどちらかを達成している。	100.0	50.0
B3 と B4 の両方を達成している。	100.0	100.0
C1 ～C5 をすべて達成している。	100.0	100.0
D1 ～D3 をすべて達成している。	100.0	100.0
D4 または D5 のどちらかを達成している。	83.8	50.0
E1 ～E5 のいずれかを達成している。	70.5	20.0
総合	92.8	72.0

<教育目標>

- A1 電気エネルギーの運用（発生、輸送、変換）に関する原理、実用化への問題と代表的な解決策を説明できる
- A2 制御対象の特性を表現した数式や図を用いて、安定性を考慮した制御システムを設計できる
- A3 エレクトロニクスに関する知識、特に IC を構成している電子素子の動作原理を理解し、それを応用した電子デバイスの利用技術や計測技術を身につけている
- A4 コンピュータを利用した情報の保持・変換・伝達のための概念を理解し、説明できる
- A5 電気・電子システム工学および関連分野の基礎知識・技術が、ものづくりの現場や実験実習の中でどのように活かされているかを認識し、理論学習の出発点としている
- A6 電気・電子回路の設計および実験実習を通してものづくりに必要な実践的知識とスキルを身に付けるとともに、安全意識を身につけている
- B1 自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる
- B2 自然現象、特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる
- B3 電気・電子回路の基礎的内容である交流の定常現象について、物理的概念を理解し、電圧・電流値等を導出できる
- B4 電気磁気学の基礎的内容である静電界、静磁界の事象を理解し、それらに関する必要な

諸量を、理論に基づいて計算できる

- C1 研究の背景を自ら調査・整理し、よく理解している
- C2 技術的な問題点や社会における課題を明確にした上で、研究目的を設定し、研究方法を設計できる
- C3 専門的知識や技術レベルを考慮した上で研究日程を立案・実行し、必要に応じて修正することにより、計画的、継続的に研究できる
- C4 工学的手法によりデータを解析し、考察できる
- C5 複数の解決案を比較検討する等により、解決策を選択できる
- D1 実験・研究内容を整った章立てに従い、分りやすい日本語で記述できる
- D2 研究内容を聴衆の理解度に合わせて発表できる
- D3 他者の研究・発表内容を理解し、的確に質問できる
- D4 基本語彙からなる英文を、日本語を介することなく読み、大意を把握できる
- D5 自律的、継続的な学習により、TOEIC450 点相当以上の英語運用能力を身につけている
- E1 技術者の責任、倫理的問題と解決策の事例を知り、自ら考える素養を持つ
- E2 技術と社会の関わりを歴史から学んでいる
- E3 社会の仕組みと歴史を知り、他者・他国の立場から物事を考えることができる
- E4 日本と国外の文化の差異を認識している
- E5 社会における技術者の役割および技術と人類の豊かさとの関係を理解している

2.3 情報工学科（担当：情報工学科）

1) 現状

平成 30 年度情報工学科卒業生の「学科の教育目標」に対する「成績評価シート」により評価した教育目標ごとの成績分布（数値は延べ人数）の結果を図 2.3-1 に示す。この評価では、卒業生 38 名について教育目標ごとに一般科目を除く成績（A、B、C、その他）を分類し、点数化（A=4、B=3、C=2、F=0）して平均の GPA を計算した結果、①で 3.78、②で 3.64、③で 3.89、④で 3.89、⑤で 4.00 となった。

情報工学科の教育目標：

① ものづくり能力

ハードウェア・ソフトウェアに関する知識・技能を総合的に活用することにより、実現可能なコンピュータシステムを構築できる能力を養う。

② 基礎学力

電気回路・デジタル回路・ソフトウェア開発などの実験・実習を通して、数理基礎をはじめとした情報工学における個々の基礎理論を深く理解させるとともに、総合力を養う。

③ 問題解決能力

現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を的確に捉え、コンピュータを活用した問題解決手法を自ら立案、推進できる能力を養う。

④ コミュニケーション能力

実験・実習・研究の結果を、筋道を立てて報告書にまとめ、説得力のある口頭発表を行う能力を養う。

⑤ 技術者倫理

情報モラルを有し、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を考慮できる技術者を育成する。

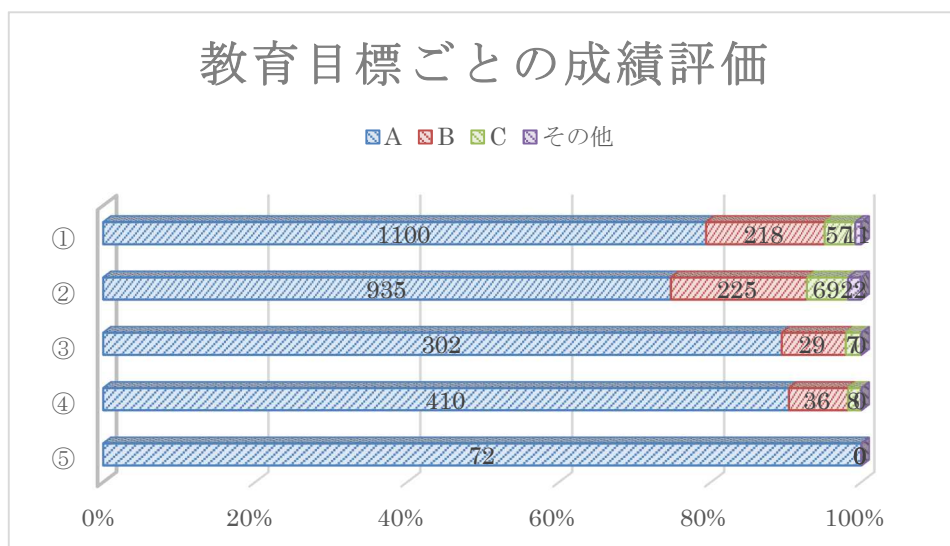


図 2.3-1 情報工学科の教育評価結果

平成 30 年度情報工学科の留年生は、1 年生 1 名（留学）、2 年生 2 名（成績不良）、3 年生 3 名（留学）2 名（成績不良）、4 年生 1 名（休学）、5 年生 1 名（進路変更）であった。

次に平成 30 年度情報科学専攻修了生の「学科の教育目標」に対する「成績評価シート」により評価した教育目標ごとの成績分布（数値は延べ人数）の結果を図 2.3-2 に示す。この評価では、卒業生 6 名について教育目標ごとに全科目の成績（A、B、C、その他）を分類し、点数化（A=4、B=3、C=2、F=0）して平均の GPA を計算した結果、①で 3.80、②で 3.36、③で 3.92、④で 3.80、⑤で 3.83 となった。

情報科学専攻の教育目標：

- ① ものづくり能力
ハードウェア・ソフトウェアの知識及び技能を総合的に活用し、社会に役立つコンピュータシステムを構築できる実践的技術者を養成する。
- ② 基礎学力
問題の本質を数理的にとらえ、コンピュータシステムを活用した問題解決方法を多角的視野から検討できる技術者を養成する。
- ③ 問題解決能力
社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有し、コンピュータを用いた適切な解析・処理を提案できる創造的技術者を養成する。
- ④ コミュニケーション能力
日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができるとともに、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する技術者を養成する。
- ⑤ 技術者倫理
倫理観をもち、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を正しく認識できる技術者を養成する。

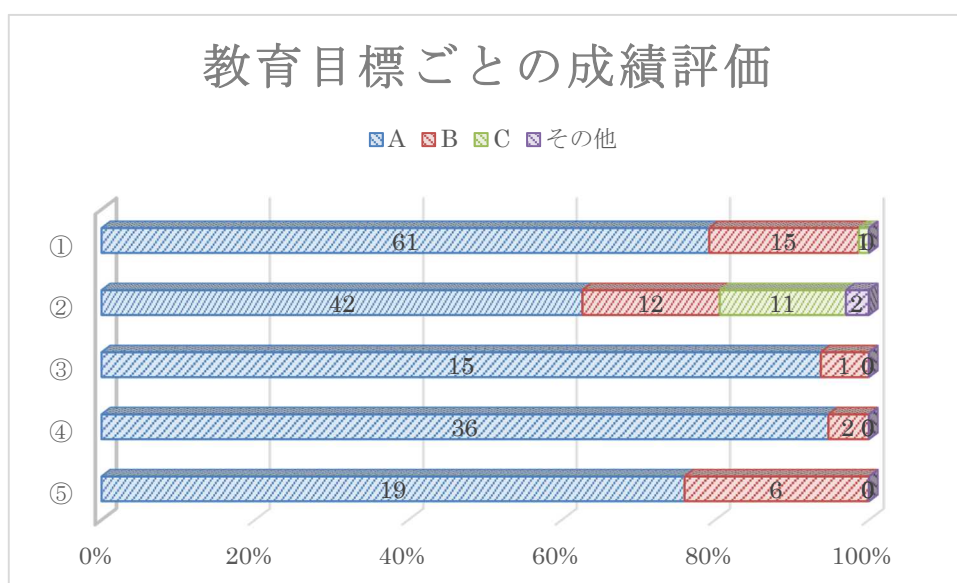


図 2.3-2 情報科学専攻の教育評価結果

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

教育目標ごとの成績評価から、専攻科の②を除いて、各目標とも80%以上がAまたはBの評価であり、GPAの平均が3.0を超えているため、問題が少ないと考える。専攻科の②だけ、若干下回っているが、専攻科は少人数のため僅かな成績の違いが現れてしまう。そのため大きな問題は無いと考える。

なお現在、新カリキュラムが3年生までのため、5年生に適応されたその後まで継続的に評価を行う必要がある。

2.4 環境都市工学科（担当：環境都市工学科）

1) 現状

環境都市工学科本科生の平成30年度の学年別成績評価のグラフを図2.4-1に示す。環境都市工学プログラム1年次（本科4年生）および2年次（本科5年生）の成績評価では65%以上の学生がA評価、24%以上の学生がB評価、C評価は7%以上であり、F評価またはN評価の学生は2%以下である。表2.4-1に環境都市工学プログラムの学習・教育到達目標、表2.4-2にコア科目表を示す。環境都市工学プログラムではこれらの到達目標ごとに、専攻科入学時（本科卒業時）と専攻科修了時に達成度の自己点検を実施している。図2.4-2～図2.4-4に2016年度から2018年度までの過去3年間の各学生の学習・教育到達目標の到達度を表したレーダーチャートを示す。

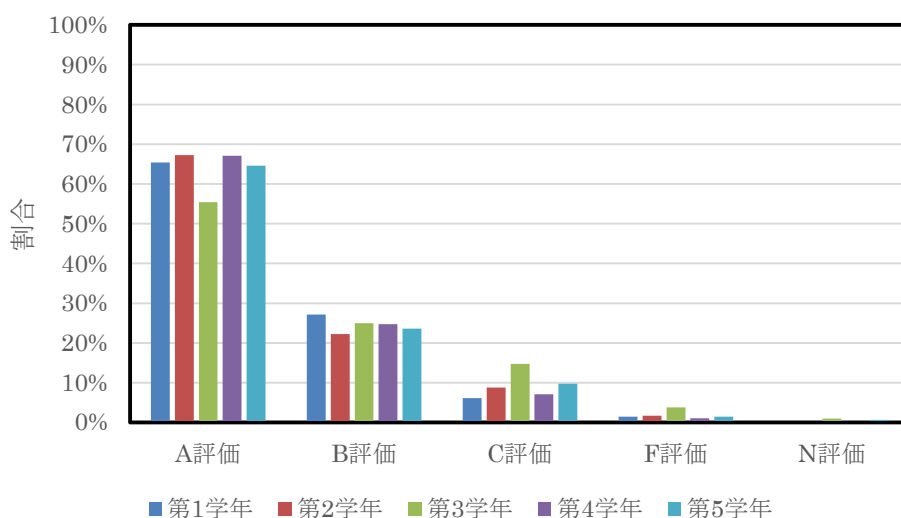


図 2.4-1 学年別成績評価

表 2.4-1 環境都市工学プログラム学習・教育到達目標

環境都市工学プログラム学習・教育到達目標

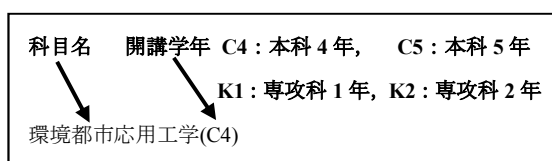
- A. 洞察力を備えた技術者をめざす。
1. 社会の変化と要請を的確に捉え、人の生活を支える社会基盤の役割をよく理解する。
 2. 社会システムの技術的な検討や評価を行い、多角的視野からシステムや構造物の設計能力を身につける。
- B. 確かな基礎知識と実務能力を備えた技術者をめざす。
1. 数学・自然科学の基礎を身につける。
 2. 工学の基礎理論に裏打ちされた専門知識を身につける。
 3. 実験実習を通して実践的技術者に欠かせない計測技術やデータ解析法を身につける。
- C. 問題解決能力を持つ技術者をめざす。
1. 防災、環境、社会資本整備等について自ら学習し、問題を提起する能力を身につける。
 2. 問題の解決策を豊かな発想で創造し、解決に向けて計画、実践する能力を身につける。
- D. コミュニケーション能力を持つ技術者をめざす。
1. 日本語による論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力を身につける。
 2. 国際理解を深め、英語での記述力と口頭発表能力および討議能力の基礎を身につける。
- E. 文化に通じ倫理観を持つ技術者をめざす。
1. 日本や世界の文化や歴史をよく認識し、技術が社会に与える影響を理解する。
 2. 自らにも社会にも誠実であり、技術者としての誇りと責任感を身につける。

表 2.4-2 コア科目表

学習・教育到達目標		分野	達成度評価対象
A1	社会基盤の役割	人文・社会	哲学Ⅰ(C4), 法学Ⅰ(C4), 経済学Ⅰ(C4), 経済学Ⅱ(C4), 現代社会学Ⅰ(C4), 現代社会学Ⅱ(C4), 社会科学特論Ⅰ(C5), 社会科学特論Ⅱ(C5), 人文科学特論Ⅰ(C5), 地域と産業(K1)
		主要分野	社会システム計画(C5), 地盤防災工学(C5), 道路工学(C5)
A2	設計能力	主要分野	環境都市応用工学(C4), 応用地盤工学(K1), 都市計画論(K2)
		実務	校外実習 A (C4)または 校外実習 (C4), インターンシップ A(K2)またはインターンシップ(K2)
		総合	卒業研究 (C5), 特別研究Ⅰ, Ⅱ (K1, K2)
B1	基礎知識	応用数学	統計学(C4), 解析学A(C4), 解析学B(C4), 数学特論A(C4), 数学特論B(C4), 線形代数学(K1), 応用解析学Ⅰ(K1), 初等代数(K2), 応用解析学Ⅱ(K2)
		自然科学	物理特論A(C4), 化学特論A(C4), 物理特論B(C4), 化学特論B(C4), 解析力学(K1), 原子物理学(K1), 生物化学(K1), 統計熱力学(K2), 健康科学特論(K2), 生体情報論(K2)
		情報	情報処理Ⅲ(C4), 環境都市CAD演習(K1)
B2	実務能力	主要分野	コンクリート構造学Ⅱ(C4), 高機能コンクリート(K1)
			構造解析(C4), 構造力学Ⅱ(C4), 構造工学(K2)
			土質力学Ⅱ(C4), 岩盤力学(K2)
			水理学Ⅱ(C4), 河川・港湾工学(C4), 水工学(K1), 水文学(K1), 水質工学(K1), 上下水道工学(C4), 環境水質学(C4), 地下環境(C4), 水域環境(C5), 計画数理(C4)
			環境計測実験(C4), 水理実験(C4), 構造実験(C4), 土質実験Ⅱ(C4), 建設工学創造実験 (K1)
B3	実験	実験実習	環境計測実験(C4), 水理実験(C4), 構造実験(C4), 土質実験Ⅱ(C4), 建設工学創造実験 (K1)
C1	問題提起能力	主要分野	都市計画(C4), 建設管理計画(C5), リモートセンシング(C5), 都市地域解析論(K1)
C2	問題解決能力	演習	設計製図Ⅱ(C4), 設計製図Ⅲ(C5), 環境都市工学創造ゼミ (C4), 建設工学創造実験 (K1), 環境都市設計演習(K2)
		実務	校外実習 A (C4)または 校外実習 (C4), インターンシップ A(K1)またはインターンシップ(K1)
		総合	卒業研究 (C5), 特別研究Ⅰ, Ⅱ (K1, K2)
D1	日本語	人文・社会	日本語表現(C4), 日本の言葉と文化(K1)
		総合	卒業研究 (C5), 特別研究Ⅰ, Ⅱ (K1, K2)
D2	英語	人文・社会	科学英語基礎ⅡA(C4), 科学英語基礎ⅡB(C4), 英語ⅠA(C4), 英語ⅠB(C4), 英語ⅡA(C5), 英語ⅡB(C5), 英語Ⅲ(C5), 技術英語(K1), 国際技術表現(K1), 総合英語Ⅰ (K1), 総合英語Ⅱ (K2), 上級英語表現(K2)
E1	文化や歴史の認識	人文・社会	歴史特論Ⅰ(C4), 歴史特論Ⅱ(C4), 文学特論(C5), 歴史学(K1), 技術史(K2)
E2	倫理観	人文・社会	哲学Ⅱ(C4), 法学Ⅱ(C4), 産業倫理(C5), 人文科学特論Ⅱ(C5), 技術者倫理 (K1)

(ゴシック体は必修科目)

凡例



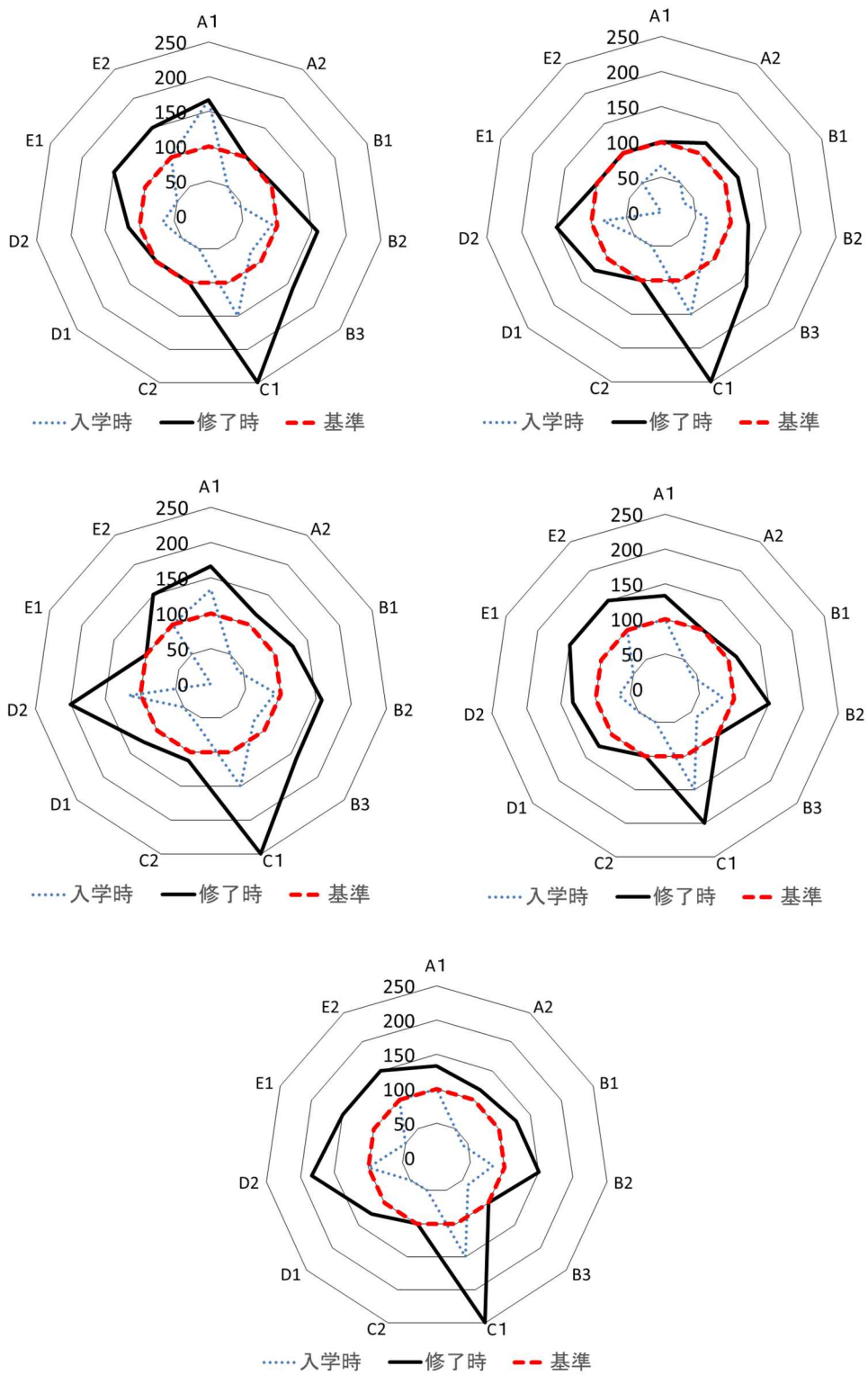


図 2.4-2 学習・教育到達目標の到達度(2016 年度)

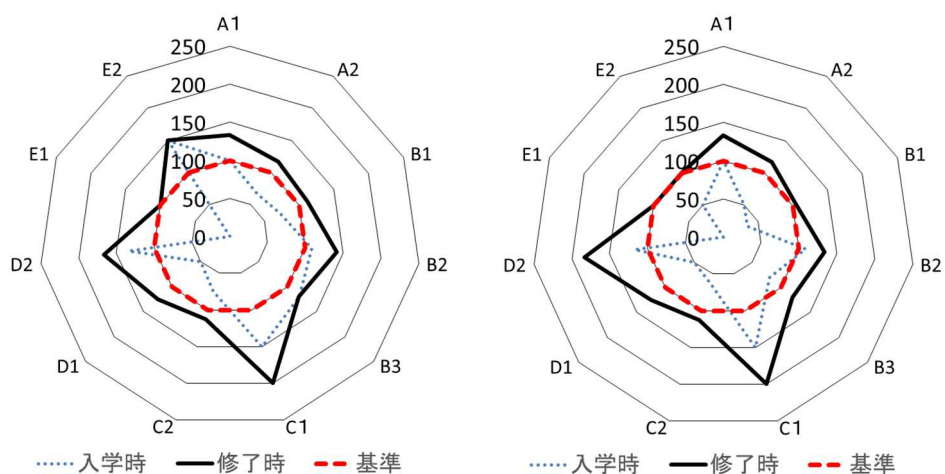


図 2.4-3 学習・教育到達目標の到達度(2017年度)

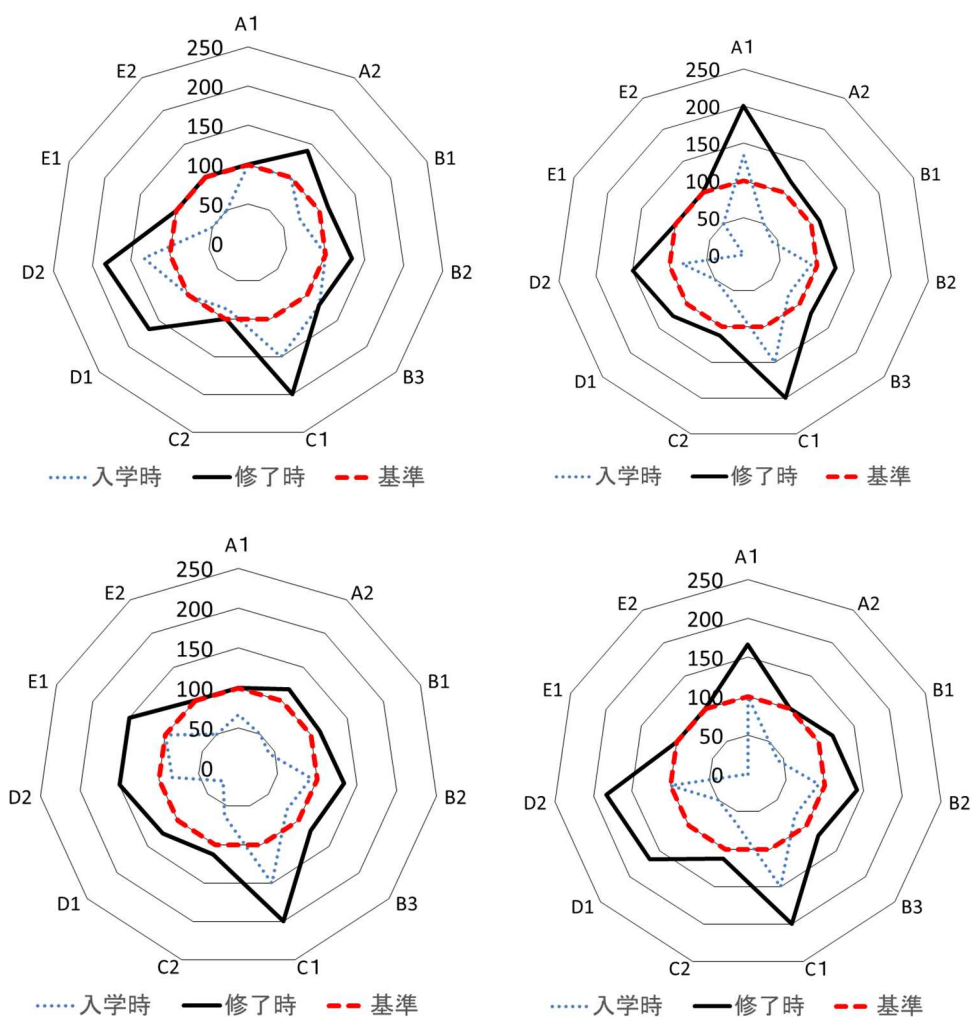


図 2.4-4 学習・教育到達目標の到達度(2018年度)

専攻科入学時の学習・教育到達目標に関して、2016年度では目標E 1が0%の学生が2名、また多くの学生が目標A 2，C 2が低い値となっている。この傾向は2017年度，2018年度の学生にもみられる。原因としては、目標E 1に該当する歴史系の科目を履修する学生が少ないためと考えられる。目標A 2，C 2については、該当する多くの科目が専攻科で開講しているためである。専攻科生は修了時までには学習・教育到達目標を達成している必要があるため、各学期初めに学生に対して履修科目の指導を行っており、専攻科修了時には全学生が到達目標100%以上を達成している。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

過去3年間の専攻入学時における学習・教育到達目標の到達度状況から今後も特定の到達目標が低い値となることが予想される。よって、本科在学時に学習・教育到達目標を十分に理解させ、履修指導を実施する必要がある。また、今後も継続的に専攻科生に対して学習・教育到達目標に関する自己点検を実施する必要がある。

2.5 建築学科（担当：建築学科）

1) 現状

まず本学科の評価結果を述べる。「学科の学習教育目標」（表 2.5-1）に沿った「評価シート」により GPA で評価した結果、平成 28-30 年度は図 2.5-1 に示される結果となった。

ここで、GPA は、A=4, B=3, C=2, F=0 で各教育目標毎の平均値を算出している。平成 28 年度本学科卒業生は 49 名、29 年度は 37 名、30 年度は 40 名である。平成 28 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.33、B で 3.15、C で 3.35、D で 3.32、E で 3.53、であり、平成 29 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.12、B で 2.87、C で 3.24、D で 3.10、E で 3.33、平成 30 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.35、B で 3.20、C で 3.45、D で 3.42、E で 3.42、と過去年で最高値を示した。以後、経年変化を観測する必要がある。

表 2.5-1 学科教育目標

A	広い視野から建築に関する問題を捉え、解決できる技術者をめざす
B	建築に必要な基礎知識を備えた技術者をめざす
C	実務能力を備えた技術者をめざす
D	コミュニケーション能力が優れた技術者をめざす
E	文化に通じ倫理観を持つ技術者をめざす

次に専攻科の評価結果を述べる。「専攻科の達成度評価対象科目」（表 2.5-2）を用い、各到達目標〈*〉軸と JABEE 教育目標(基準 1) (*)軸に該当している各分野の半数以上を修得していれば各々達成していると判断する。その都合いについては、次式を用いる。

〈*〉(*)の達成度

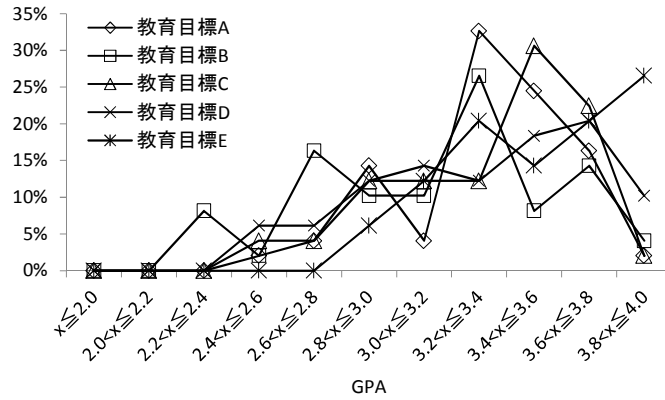
$$= (60 * \text{成績 C の} \langle * \rangle (*) \text{ の科目数} + 80 * \text{成績 B の} \langle * \rangle (*) \text{ の科目数} + 100 * \text{成績 A の} \langle * \rangle (*) \text{ の科目数}) / \langle * \rangle (*) \text{ の修得科目数} \quad (2)$$

以上の方法により該当学生の達成度評価を表 2.5-3 のように算出した。

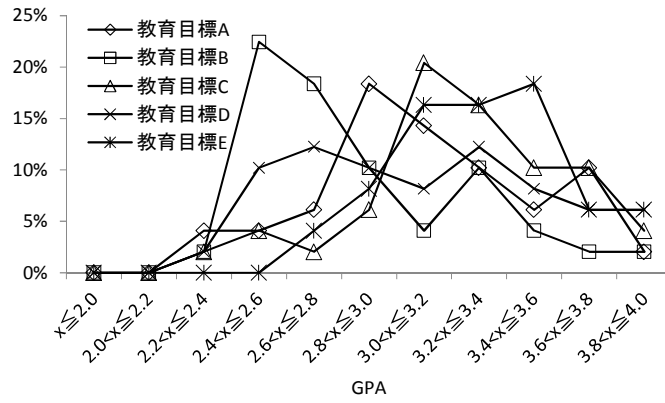
平成 28 年度修了学生 3 名の平均値を表 2.5-4、平成 29 年度修了学生 4 名の平均値を表 2.5-5、平成 30 年度修了学生 3 名の平均値を表 2.5-6 に示す。全体的に高得点であるが、JABEE 学習・教育目標 b および建築学プログラム学習・教育目標 E2 が平成 28 年度には 60 点と奮わなかったが、平成 29 年度には 75 点、平成 30 年度には 80 点に向上した。以後、経年変化を観測する必要がある。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

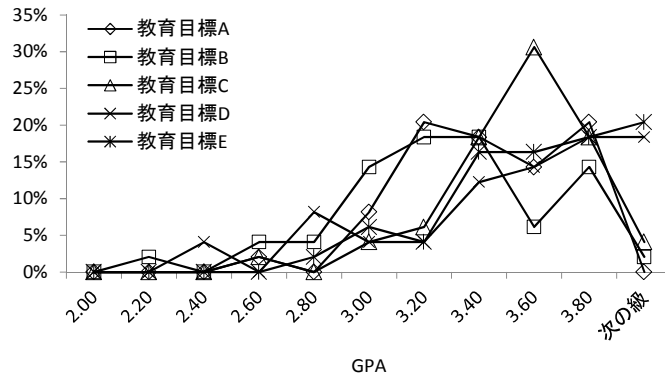
本科では専門科目の達成度が前年度に大きく下がったが持ち直した。今後は、継続的にデータを取りつつ、問題点を把握する予定である。



a) 2016年度



b) 2017年度



c) 2018年度

図 2.5-1 教育評価結果 (本学科)

表 2.5-2 専攻科の達成度評価対象科目

(a-i : JABEE 学習・教育目標, A-E : 建築学プログラム学習・教育目標)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i
A	建築設計製図ⅣA 未 1				建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	
	建築設計製図ⅣB 未 1				建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	
	建築設計製図ⅣC 未 1				建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	
B1			線形代数学 未 1						
			応用解析Ⅰ 未 1						
			応用解析Ⅱ 未 1						
B2			建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1					
			建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1					
			建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1					
B3			建築材料実験 未 1	建築材料実験 未 1					
			建築構造実験 未 1	建築構造実験 未 1					
			建築環境実験 未 1	建築環境実験 未 1					
C1			建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	建築設計製図ⅣA 未 1	
			建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	建築設計製図ⅣB 未 1	
			建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	建築設計製図ⅣC 未 1	
D1									
E1									

表 2.5-3 専攻科の達成度評価事例

2015-2016		JABEEの学習・教育目標									AVE.							
		a	b	c	d	e	f	g	h	i								
建築学プログラム の 学習・教育目標	A	90	○		93	○	92	○	92	○	90	○	91					
	B1			70	○								70					
	B2			90	○	85	○						88					
	B3			90	○	91	○						90					
	C1			90	○	90	○			90	○	90	○	90				
	C2					90	○	90	○	90	○	90	○	90				
	D1							90	○					90				
	D2							70	○					70				
	E1	80	○											80				
	E2			60	○									60				
	AVE.	85		60		85		90		91		85		91		90		90

○印は、修得科目数を満たしていることを示す

表 2.5-4 専攻科の平成 28 年度達成度評価

a) JABEE 学習・教育目標

	a	b	c	d	e	f	g	h	i
	90.6	60.0	86.5	91.3	91.9	92.2	91.9	90.0	90.0

b) 建築学プログラム学習・教育目標

A	B1	B2	B3	C1	C2	D1	D2	E1	E2
93.2	79.3	86.7	91.0	90.0	90.7	95.0	86.7	91.1	60.0

表 2.5-5 専攻科の平成 29 年度達成度評価

a) JABEE 学習・教育目標

	a	b	c	d	e	f	g	h	i
	97.9	75.0	94.5	96.8	98.3	93.5	98.3	100.0	100.0

b) 建築学プログラム学習・教育目標

A	B1	B2	B3	C1	C2	D1	D2	E1	E2
97.2	85.6	93.1	98.3	100.0	99.5	90.0	90.0	95.8	75.0

表 2.5-6 専攻科の平成 30 年度達成度評価

a) JABEE 学習・教育目標

	a	b	c	d	e	f	g	h	i
	98.3	80.0	90.3	95.6	98.9	96.5	98.9	100.0	100.0

b) 建築学プログラム学習・教育目標

A	B1	B2	B3	C1	C2	D1	D2	E1	E2
98.1	81.3	83.3	97.9	100.0	99.7	96.7	93.3	96.7	80.0

2.6 一般学科（担当：一般学科長）

1) 現状

進級判定会議資料を利用して作成できる学年 GPA により評価した結果、図 2.6-1 に示される結果となった。

	1年	2年	3年	4年	5年
機械	3.704	3.345	2.948	3.160	3.056
電気	3.362	3.454	3.522	3.316	3.164
情報	3.581	3.481	3.196	3.497	3.426
環境	3.528	3.490	2.976	3.518	3.430
建築	3.586	3.561	3.266	3.222	3.231

図 2.6-1 学年 GPA

また、専門学科との連絡会を年度の半ばに行い、有意義な意見交換がなされた。以下、概要です。

国語科

達成目標・学習の手引き・科目別の学習内容と到達目標の確認を行った。専門学科からの意見としては、就職やその後を見据えた「日本語表現」への好意的評価をいただいた。これからも学生の字の丁寧さ・敬語法・長めの文章の読み書き・レポート作法等については反復指導が必要ということを相互に確認した。

社会科

社会科よりモデルコアへの対応を専門学科の先生方に報告し、質疑応答を行った。地理・歴史などを必修とするなどして、第3学年までの9科目でバランスよく学習するように配置することとなった。

数学と理科

数学科からは復習試験の結果報告、数学勉強室の参加状況の報告があった。また、物理からの復習試験の結果報告があった。いずれの科目も補修・勉強会・個別指導といったフォローアップを行っており、成果が出ていると評価され継続することとなった。

英語科

英語科1年間の取り組みを次の4項目から説明した。

- (1) 英語多読・多聴指導
- (2) 文法・作文指導
- (3) 語彙・コロケーション指導
- (4) 英語プレゼンテーション指導及び全国高専英語プレゼンテーションコンテスト指導

豊田高専の英語教育の指導内容はバランスがとれており、順調に推移しているといえる。

課題として、3年生で実施している TOEIC-IP 受験を4年生に移行させてはどうかと言う改革案も提示された。次年度の課題として纏められた。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

学年 GPA の結果から、ほとんどのクラスで留年者対策の効果が出ているようである。プラスに作用しているこれまでの改善策は継続をしたい。しかしながら、二つのクラスのみ学年 GPA の低下が見られる。これは他クラスと比較し学力不審者多いことが主要因と考えられる。これまで以上に、学科内における低学年からの継続した底上げ努力を行うとともに、専門学科との連絡会を通して一般学科と専門学科をつなぐ取り組みを機能させ早い段階からの対応を行って行きたい。

3. 学生生活に関すること

3.1 進路に関わる事項（本科担当：教務主事、専攻科担当：専攻科長）

平成30年度の本科5年生の就職・進学の一覧を表3.1-1に示す。就職する学生の割合は平成29年度より10ポイント多くなって、56%であった。この割合は平成28年度とほぼ同じである。インフラ系の有名会社に就職した学生は、例年通り多く、例えば中部電力4名、JR東海3名であった。また、環境都市工学科では17名が公務員になった。進学面でもいわゆる有名大学（旧帝国大学）に9名進学しているなど進路状況は良好と言える。

表3.1-1 進路先一覧（平成31年3月本科卒業）

機械工学科	電気・電子システム工学科	情報工学科	環境都市工学科	建築学科
●就職	●就職	●就職	●就職	●就職
三菱電機エンジニアリング(株) 1	レバレジーズ(株) 1	ヤマトシステム開発(株) 1	(株)菱エンジニアリング 1	(株)ナスカ 1
豊田合成(株) 1	中部電力(株) 2	(株)エージェント 1	(株)オリエンタルコンサルタンツ 1	(株)LIXIL 1
王子製紙(株) 1	浜松ホトニクス(株) 1	アイシン精機(株) 2	JR東海(株) 1	(株)NTTファシリティーズ東海 1
ヤマザキマザック(株) 1	富士電機(株) 1	ミントウェブ(株) 1	NDS(株) 1	アイシン開発(株) 1
パナソニックエコシステムズ(株) 1	日本特殊陶業(株) 1	アイシン・コムグループ(株) 2	NEXCO中日本(株) 1	(株)アキュラホーム 1
東邦ガス(株) 1	ブラザー工業(株) 1	(株)KSF 1	NTTインフラネット(株) 1	(株)大林組 1
カルビー(株) 1	(株)FUJI 1	(株)アジル・ラボ 1	関西電力(株) 1	鹿島クレス(株) 1
NOK(株) 1	小島プレス工業(株) 1	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株) 1	太平洋セメント(株) 1	コヨエンジニアリング&テクノロジー(株) 1
オークマ(株) 1	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株) 1	キャノンメディカルシステムズ(株) 1	中部電力(株) 1	住友不動産(株) 1
東海旅客鉄道(株) 2	(株)NTTファシリティーズ(東海) 1	(株)デンソークリエイト 1	東京ガス(株) 1	大和ハウス工業(株) 2
カゴメ(株) 1	三菱電機ビルテクノサービス(株) 1	ボッシュ(株) 1	五洋建設(株) 1	(株)竹中工務店 1
浜松ホトニクス(株) 1	名古屋高速道路公社 1	東邦ガス情報システム(株) 1	基礎地盤(株) 1	中部電力(株) 1
三菱重工(株) 1		(株)アイヴィス 1	(独)水資源機構 1	(株)東栄住宅 1
日本車輛製造(株) 1		フェニル(株) 1	国土交通省中部地方整備局 6	東海旅客鉄道(株) 1
矢崎総業(株) 1		トヨタ自動車(株) 1	国土交通省近畿地方整備局 1	トヨタ&S建設(株) 2
オーエスジー(株) 1		(株)日立産業制御ソリューションズ 1	関東管区警察局 1	トヨタすまいるライフ(株) 1
(株)FUJI 1		三菱重工業(株) 1	みよし市役所 1	中日本高速道路(株) 2
日本たばこ産業(株) 1		(株)アクアリング 1	豊田市役所 1	雪印メグミルク(株) 1
小島プレス工業(株) 1		(株)明和eテック 1	西尾市役所 1	国立印刷局 1
日本特殊陶業(株) 1		サントリープロダクツ(株) 1	安城市役所 1	刈谷市役所 1
(株)榎屋 1		(株)テクロス 1	刈谷市役所 1	
本田技研工業(株) 1		愛知県 1	小牧市役所 1	
東レ(株) 1			一宮市役所 1	
●進学	●進学	●進学	●進学	●進学
名古屋大学 1	東京大学 1	名古屋大学 2	京都大学 1	名古屋大学 2
東北大学 1	名古屋大学 1	名古屋工業大学 1	横浜国立大学 1	千葉大学 1
豊橋技術科学大学 4	名古屋工業大学 1	筑波大学 1	千葉大学 1	札幌市立大学 1
長岡技術科学大学 1	東京海洋大学 2	宇都宮大学 1	岐阜大学 1	豊橋技術科学大学 3
豊田工業大学 1	岩手大学 1	岐阜大学 2	広島大学 2	トライデント外国語ホテルブライダル専門学校 1
名古屋デザイナー学院 1	群馬大学 1	豊橋技術科学大学 4	豊橋技術科学大学 2	
	三重大学 4			
	豊橋技術科学大学 8			
	豊田工業大学 3			
豊田高専専攻科 5	豊田高専専攻科 4	豊田高専専攻科 3	豊田高専専攻科 5	豊田高専専攻科 7
●その他	●その他	●その他	●その他	●その他(O)
未定(外国人留学生 帰国後就職) 1	豊田高専研究生 1			
	未定(外国人留学生 帰国後進学) 1			
計39名	計41名	計38名	計44名	計38名

3.2 生活指導に関わる事項（担当：学生主事）

本校では、学生の飲酒・喫煙については、校内（学寮を含む）だけではなく、学校周辺及び通学路上においても一切禁止されている。それらの場所で飲酒・喫煙行為を発見された学生は、成年・未成年にかかわらず学生指導の対象としている。学生の生活指導に関わる事項の総括は、例年、次年度の第1回指導教員会議で報告される。

平成30年度中の規則違反（飲酒、喫煙、窃盗、試験時の不正行為）に関わる学生指導件数は、表3.2-1に示す通りである。高学年である3～5年生での指導件数が目立つ結果となった。平成30年度は学生の懲戒処分となるような案件は1件発生し、全体の指導件数は前年よりも増加した。特に飲酒の指導については大幅に増加した。これは特定の部活動の集団飲酒によるものであった。巡回指導は例年どおり、学生寮を含む校内と校外で教員による巡回指導は頻繁に行った。次年度以降も日頃からの関係教員による計画的な巡回指導を行なう予定である。

表 3.2-1 学生指導件数一覧（平成30年度）

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計	前年度比
飲 酒	0	0	3	8	9	0	20	+19
喫 煙	0	0	0	1	0	0	1	-5
窃 盗	0	0	1	0	0	0	1	+1
試験時の不正行為	0	0	0	0	0	0	0	-

学生指導に役立てるために、学生の盗難・紛失届の状況を把握している。平成30年度中の盗難・紛失件数は、現金・財布8件、衣類3件、その他1件、の計12件であった。本校関係教員によって、「自転車はツーロックさせる（二重鍵をかけさせる）」、「本校最寄りのATMを財布代わりに活用させ大金を持たせない」などの指導をしている。現金の盗難・紛失届の件数は前年度と同程度であった。貴重品管理が徹底できていない案件のため、今後も自己管理の徹底を指導していきたい。

本校では、交通安全指導の一環として、独自の「自動車等使用規則」を設けて、規定の講習等を受講した3年生以上の学生に自動車等を用いた通学を許可している。平成30年度中に自動車等使用規則に違反した学生数は延べ25名であった。大半が無許可使用や許可証の未貼付による違反であった。

加えて、交通安全指導に役立てるために、学生に交通事故報告させている。平成30年度中に学生から報告のあった交通事故は、自転車3件、原動機付自転車1件、自動二輪車1件、自動車(四輪)6件、の計11件であった。その中には、骨折を負う事故が1件あったが、幸い大きな事故はなかった。学生から報告された事故事例は、ホームルームや学内の講習会等で学生への注意喚起に役立てられている。

3.3 学生の健康に関わる事項（担当：学生主事）

傷病・カウンセリングなどによる、本年度の保健室利用実績を、表 3.3-1 に示す。

表 3.3-1 平成29・30年度保健室利用状況（症状別利用件数）

	内容	詳細	平成29年度		平成30年度	
	保健室 利用件数	病気	風邪症状等	978	2342	934
怪我		打撲・捻挫・骨折等	653	519		
こころ		相談等	711	1069		
学生相談室利用件数(カウンセラー)			219		320	

平成30年度の保健室来場者の内訳は、前年度と比較し、こころに関する利用が増加した。

また、前年度に多かった病気で利用については、学生の間診票から分析し、睡眠時間が5時間以内であったり、十分に食事を摂取していなかったりしていることが多かった。そのため、保健室として、十分な睡眠、栄養摂取の啓発活動や、学寮の低学年については、1月の体調不良者が多い時期に、指導寮生から2回に分け、「睡眠の重要性について」「栄養の大切さについて」を伝えるなどした。平成30年度については、例年と比較し、インフルエンザの多い時期には、病気で保健室を利用する学生が減少した。

3.4 クラブ活動に関わる事項（担当：学生主事）

平成30年度のクラブ部員（課外活動）登録数一覧を表 3.4-1 に示す。部活所属率は前年度に比べて全体で5%ほど上昇し、なおかつ全学年で上昇した。部活所属人数は4、5年生になると減る傾向にある。男子学生と比較して女子学生の部活所属率が高い。専攻科に進学してからもクラブ（課外活動）に所属している学生がいる。

表 3.4-1 クラブ登録部員数一覧

	1年			2年			3年			4年			5年			計		
	部員	男	女	部員	男	女	部員	男	女	部員	男	女	部員	男	女	部員	男	女
吹奏楽部	8	5	3	4	1	3	6	2	4	8	5	3	3	2	1	29	15	14
写真部	4	4	0	3	3	0	5	3	2	6	1	5	3	2	1	21	13	8
放送研究部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	1	1	0	5	5	0
自動車部	4	4	0	4	4	0	4	4	0	4	4	0	3	3	0	19	19	0
インターアクトクラブ(部)	2	1	1	5	0	5	11	10	1	4	4	0	0	0	0	22	15	7
軽音楽部	6	6	0	10	8	2	8	8	0	7	7	0	6	5	1	37	34	3
コンピュータ部	11	10	1	4	4	0	6	6	0	5	5	0	1	1	0	27	26	1
囲碁・将棋部	3	3	0	9	9	0	3	3	0	2	2	0	3	3	0	20	20	0
茶道部	2	1	1	4	1	3	4	0	4	2	0	2	1	0	1	13	2	11
演劇部	2	1	1	4	2	2	5	1	4	2	0	2	2	1	1	15	5	10
美術部	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	1	3	0	3	6	2	4
スペース・デザイン研究部	4	4	0	5	4	1	5	5	0	8	8	0	0	0	0	22	21	1
ジャグリング部	3	3	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0	2	2	0	9	9	0
鉄道航空研究同好会	1	1	0	5	5	0	3	3	0	3	3	0	2	2	0	14	14	0
機巧同好会	0	0	0	2	1	1	6	5	1	2	2	0	0	0	0	10	8	2
天文同好会	3	3	0	3	2	1	2	1	1	2	0	2	0	0	0	10	6	4
アークエイト同好会	11	7	4	6	4	2	6	4	2	4	2	2	10	10	0	37	27	10
ダンス同好会	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0	0	0	0	3	2	1

文化系部門計	64	53	11	69	49	20	77	57	20	69	52	17	40	32	8	319	243	76
陸上競技部	9	7	2	12	10	2	11	11	0	8	7	1	7	5	2	47	40	7
水泳部	6	5	1	9	5	4	11	7	4	7	5	2	8	5	3	41	27	14
硬式野球部	8	8	0	11	10	1	9	9	0	12	9	3	11	10	1	51	46	5
ソフトテニス部	15	12	3	14	10	4	10	6	4	13	10	3	11	9	2	63	47	16
テニス部	15	15	0	10	7	3	14	12	2	2	1	1	6	6	0	47	41	6
卓球部	8	6	2	8	8	0	8	7	1	3	3	0	4	2	2	31	26	5
サッカー部	12	12	0	14	13	1	12	11	1	4	4	0	3	3	0	45	43	2
バスケットボール部	6	6	0	14	12	2	13	12	1	9	9	0	4	3	1	46	42	4
女子バスケットボール部	4	0	4	2	0	2	7	0	7	3	0	3	2	0	2	18	0	18
バレーボール部	7	5	2	5	2	3	4	4	0	2	2	0	4	4	0	22	17	5
女子バレーボール部	4	0	4	5	0	5	3	0	3	0	0	0	0	0	0	12	0	12
ハンドボール部	8	8	0	8	6	2	11	11	0	3	3	0	6	5	1	36	33	3
体操部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
柔道部	1	1	0	2	1	1	5	5	0	3	3	0	1	1	0	12	11	1
剣道部	3	2	1	2	1	1	7	7	0	3	3	0	5	5	0	20	18	2
弓道部	7	6	1	11	5	6	10	8	2	3	3	0	9	7	2	40	29	11
山岳部	3	3	0	2	2	0	10	9	1	8	7	1	10	10	0	33	31	2
空手道部	0	0	0	2	2	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	4	3	1
バドミントン部	12	7	5	11	11	0	12	6	6	6	6	0	7	4	3	48	34	14
ラグビーフットボール部	5	5	0	5	4	1	7	7	0	3	1	2	7	6	1	27	23	4
オリエンテーリング部	0	0	0	3	3	0	6	5	1	1	1	0	0	0	0	10	9	1
運動系部門計	133	108	25	150	112	38	171	137	34	93	77	16	106	86	20	653	520	133
全体計	197	161	36	219	161	58	248	194	54	162	129	33	146	118	28	972	763	209
所属人数	178	144	34	188	144	44	208	165	43	142	115	27	128	102	26	844	670	174
重複所属人数	18	16	2	29	15	14	34	25	9	18	13	5	18	16	2	117	85	32
重複率(%)	10.7	11.8	5.9	16.5	11.8	31.8	16.3	15.2	20.9	12.7	11.3	18.5	14.1	15.7	7.7	13.9	12.7	18.4
学生数	213	175	38	223	176	47	264	215	49	214	180	34	206	163	43	1163	946	217
所属率%	83.6	82.3	89.5	84.3	81.8	93.6	78.8	76.7	87.8	66.4	63.9	79.4	62.1	62.6	60.5	72.6	70.8	80.2
前年度所属率%	80.8	81.0	80.0	79.4	79.8	77.8	70.3	73.2	56.1	65.8	66.3	63.6	51.2	48.3	67.7	67.3	67.2	68.1

課外活動指導（文化系クラブを含む全てのクラブ）は、顧問（部長・副部長）教員と、課外活動支援教員（全教員で構成）での二重の管理体制をとっている。これにより、全教員の課外活動への参加を促し、課外活動の状況把握と管理意識をこれまで以上に高めることが目的である。平日の課外活動は、18時30分まで（片付けの時間を含む）で、土曜日の課外活動は9時から16時45分（12時15分から13時まで休憩）まで（片付けの時間を含む）である。日曜日と祝日の課外活動は、原則として対外試合以外には行わないように指導がなされている。また、中間及び期末試験開始の1週間前から試験最終日の前日までは、原則として課外活動は禁止である。

3.5 キャリア教育：に関わる事項（担当：キャリア教育支援室長）

主にホームルームまたはアカデミックガイダンスの時間に、各学年またはクラスの全学生を対象として実施した、本年度のキャリア教育支援プログラムを表 3.6-1 に示す。

表 3.5-1 平成 30 年度キャリア教育支援プログラム一覧

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年
4 月	心得講座 (4/18)	目標設定・確認講座(4/11)	目標設定・確認		
5 月			特別講演「社会が求める人材」(5/23)		
6 月	合宿研修 (6/15～16) 将来イメージ講座 (6/15)	今の私・卒業後の私① (6/27)			
7 月				ビジネスマナー講座 (7/18)	
9 月					労働法講演会 (9/27)
10 月	スキルアップ講座(10/24)		キャリア・プランニング		
				社会人準備講演会 I (年金) (10/24)	
11 月			今の私・卒業後の私③ (11/28) 班分け&進路情報調査の開始		社会人準備講演会 II (労働法・租税) (11/22)
12 月		人間力講演会 (12/5)	今の私・卒業後の私③ (12/12) 進路情報調査結果の発表		
1 月			しごとガイダンス(1/24) ※主に MEI 科学生対象		

3 学年のプログラムである、「今の私・卒業後の私③」は、進路先企業等を調査して発表をさせるプログラムである。従来 6 月に調査を開始して 7 月に発表していたが、学生のモチベーション等を考慮して後期に実施することとした。またそれに伴って、人間力講座実施時期を 12 月に遅らせた。3・4 学年において本年度はキャリア・プランニングおよび、目標設定・確認講座を前後期始めに実施しているが、内容に重複があることと、各プログラムを充実させて、学生の「またか」という雰囲気はなくすために来年度は前期始めのみの開催としたい。今年度初めて「社会人準備講座Ⅰ」として年金に関する講演会を第 4 学年に対して行った。興味が持てるか不安であったが、アンケート結果からは興味の持てる内容であったことがうかがい知れた。

表 3.6-2 に、本科 4 年生および専攻科 1 年生の希望者向けに実施した、進路決定に関するキャリア教育支援プログラムの一覧を示す。

表 3.5-2 希望者向けの平成 29 年度キャリア教育支援プログラム一覧

実施日	講座名	委託先	参加人数
11/22	就職活動支援講座	メディア総研(株)	158
12/19	編入学説明会(※)	ECC 編入学院名古屋校	72
1/24	女子学生のための ビューティーアップ講座	資生堂ジャパン(株)中部支社	28
1/20	履歴書の作成・添削講座	(株)マナーマネジメント名古屋	27
2/2	自己表現力向上プログラム	豊田高専同窓会	30
2/26	模擬面接講座	(株)マナーマネジメント名古屋	20
3/16	同窓生による模擬面接	豊田高専同窓会	120

(※)は本年度初めて実施したプログラムである。

昨年度と同様、後学期中間試験終了直後に「就職活動支援講座」と銘打って、年々早まる就職活動へのキックオフとなる特別講演を実施した。やはり本校では、この時期に本気で進路について考えている学生はまだまだ少ないようである。他の講座については、参加人数は昨年度のみにとどまった。「同窓生による模擬面接」については、第 4 学年指導教員の呼びかけもあり、専攻科生が 0 名であったにも関わらず、全体としてここ数年で最も多い参加人数となった。

来年度以降に向けては、本科 4 年生向けのプログラムが過多となりつつあるため、内容が重複しているプログラムの整理を行う。

3.6 各種資格取得者数（本科担当：教務主事）

課題研究として単位が認められる資格の取得状況（平成 27-30 年度）を表 3.7-1 に示す。平成 30 年度の本科 5 年生の資格取得状況については卒業判定会議（H31/3/8）で、本科 1~4 年生については進級判定会議（H31/3/12）においてそれぞれ報告された。ただし、年度末の 2 月と 3 月に取得した資格については、判定会議資料には含まれていないが、表 3.7-1 には含まれている。年 2 回団体受験をしている実用数学技能検定と TOEIC については、それぞれ教務委員会で詳細な結果が報告された。

平成 30 年度の全資格の取得数は前年度より少し減少した。取得数が特に減少した資格は工業英語能力検定 4 級（27 名）と TOEIC の I・II（計 22 名）であった。一方、実用数学技能検定準 2 級の取得数は前年度と比べて 20 名程増加した。実用数学技能検定に関しては、これまでの傾向通り、1 年おきに増減しているようである。

TOEIC の学内での団体受検日については、5 月の連休中を避けて、平成 31 年度は 6 月 14 日（金）に設定することになった。

表 3.6-1 課題研究として単位が認められる資格数一覧（平成 27-30 年度）

課題研究名称	級（種別）	H27	H28	H29	H30
実用数学技能検定	準2級	57	84	50	70
実用数学技能検定	2級	7	13	14	18
実用数学技能検定	準1級	3	0	3	2
実用英語技能検定	準2級	12	14	18	21
実用英語技能検定	2級	8	9	17	15
実用英語技能検定	準1級	3	0	4	0
実用英語技能検定	1級	0	0	0	0
工業英語能力検定	4級	27	60	64	37
工業英語能力検定	3級	2	3	5	10
工業英語能力検定	準2級	0	0	0	1
T O E I C	I	23	27	42	33
T O E I C	II	17	18	33	20
T O E I C	III	23	15	20	17
T O E I C	IV	13	12	16	19
T O E I C	V	5	8	12	10
T O E I C	VI	11	12	10	11
ドイツ語技能検定	4級	0	0	1	0
ドイツ語技能検定	3級	3	1	6	10
ドイツ語技能検定	2級	2	5	1	2
ドイツ語技能検定	準1級	0	0	0	0
スペイン語技能検定	5級	0	0	0	0
スペイン語技能検定	4級	1	0	3	0
スペイン語技能検定	3級	0	1	0	0
実用フランス語技能検定	4級	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	3級	0	1	0	0
実用フランス語技能検定	準2級	0	1	0	0
実用フランス語技能検定	2級	0	0	0	1
実用フランス語技能検定	準1級	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	1級	0	0	0	0
日本漢字能力検定	2級	6	2	6	3
日本漢字能力検定	準1級	0	0	0	0
ビオトープ計画管理士	2級	0	0	0	1
ビオトープ施工管理士	2級	0	0	0	0
ディジタル技術検定	3級	31	23	21	17
ディジタル技術検定	2級	12	30	10	5
CGエンジニア検定CG部門	2級	0	0	1	0
電気主任技術者	3種	4	0	2	1
電気工事士	2種	0	0	0	5
陸上無線技術士	1級	0	0	0	0
技術士第一次試験		23	27	20	13
ITハースポート試験		4	15	8	8
基本情報技術者		15	5	13	5
応用情報技術者		3	2	3	2
2次元CAD利用技術者	2級	13	4	5	25
機械設計技術者試験	3級	7	0	2	1
土木施工管理技士	2級	0	0	1	0
宅地建物取引士		1	0	0	0
福祉住環境コーディネーター検定	3級	4	10	4	3
福祉住環境コーディネーター検定	2級	1	6	7	0
合計		341	408	422	386

4. 学生寮（教育寮）に関すること（担当：寮務主事）

4.1 現状

定められた教育目的・目標の達成のための取り組みとして、表 4.1-1 の活動を行った。

表 4.1-1 寮の行事一覧

平成30年度学寮関係行事・イベント一覧

前期			
日程	行事・イベント	対象	場所
3月31日(土)～4月2日(月)	平成30年度寮指導学生研修会	寮指導学生	豊田工業高等専門学校内施設を利用
4月2日(月)	緊急法講習会	寮指導学生(3年生)	豊田工業高等専門学校学寮施設(集金室)
3月31日(土)～4月2日(月)	荷物搬入	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
4月3日(火)	新入生オリエンテーション	新入生入寮学生・寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設(食堂)
4月11日(水)	学寮アゼンブリ	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
4月11日(水)	寮生総会	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
4月18日(水)	学寮防災避難訓練	全寮生	豊田工業高等専門学校
4月27日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
5月12日(土)～5月14日(日)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校内施設を利用
5月12日(土)	寮生保護者部会全体会議	寮生保護者	豊田工業高等専門学校多目的ホール
5月16日(月)	学寮アゼンブリ(1年生・2年生・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・第2体育館・多目的ホール
6月8日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
6月20日(水)	食堂業者とのミーティング	寮生会	豊田工業高等専門学校学寮施設(食堂)
6月20日(水)	食事モニター会議	寮生保護者・寮生会・教職員	豊田工業高等専門学校福利厚生会館2階会議室
6月24日(日)	納涼祭(流しうめん・スイカ割りなど)	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
6月24日(日)	寮生食事会(留学生による軽食の提供)	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
7月11日(水)	学寮アゼンブリ(1年生・2年生・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・第2体育館・多目的ホール
7月13日(水)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
8月2日(木)	学寮アゼンブリ・閉寮式感謝状授与式	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
8月2日(木)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
8月5日(日)	荷物搬出日	寮生(必要者)・寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
後期			
日程	行事・イベント	対象	場所
9月22日(土)～23日(日)	平成30年度秋寮指導学生研修会	寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
9月22日(土)～23日(日)	荷物搬入	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
9月23日(日)	学寮アゼンブリ(低学年寮・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第2体育館・多目的ホール
9月26日(水)	学寮防災避難訓練	全寮生	豊田工業高等専門学校
10月6日(土)～10月7日(日)	オープンキャンパス 学寮案内	寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
10月14日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
10月20日(土)	佐世保工業高等専門学校へ学寮訪問	寮生会役員	佐世保工業高等専門学校学寮施設
11月7日(水)	学寮アゼンブリ(低学年寮・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・多目的ホール
11月7日(水)	検査会	寮生会・教職員・保護者	豊田工業高等専門学校福利厚生会館2階会議室
11月9日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
11月10日(土)	米子工業高等専門学校から学寮訪問	寮生会役員	豊田工業高等専門学校学寮施設
11月10日(土)	鳥羽・船産寮生会交流会	寮生会役員	鳥羽造船高等専門学校学寮施設
12月5日(水)	学寮アゼンブリ	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
12月5日(水)	寮生総会	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
12月8日(土)	福井工業高等専門学校からの学寮訪問	寮生会役員	豊田工業高等専門学校学寮施設
12月9日(日)	いも祭	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
12月14日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
12月21日(金)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
1月6日(日)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
1月6日(日)	学寮アゼンブリ(低学年寮・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第2体育館・多目的ホール
1月20日(日)	新年会	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
1月25日(金)	留学生・バドミントン交流会	留学生・チューター・高学年寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
1月30日(水)	学寮アゼンブリ(低学年寮・高学年寮で分層)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・多目的ホール
2月2日(土)	沼津工業高等専門学校からの学寮訪問	寮生会役員	豊田工業高等専門学校学寮施設
2月19日(火)	学寮アゼンブリ・閉寮式感謝状授与式	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
2月19日(火)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
2月23日(土)	荷物搬出日	寮生(必要者)・寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
3月11日(月)	合格者オリエンテーション	寮生会役員・指導寮生・班長	豊田工業高等専門学校学寮施設
通年			
日程	行事・イベント	対象	場所
平日 月曜日～金曜日	朝休館の清掃	低学年寮生・指導寮生・班長	豊田工業高等専門学校グラウンド
毎週火曜日	寮内レクリエーション(フロア別で実施)	申請したフロアの寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・第2体育館
毎週水曜日	班長ミーティング	班長	豊田工業高等専門学校学寮施設(栄志西集金室)
毎週木曜日	指導寮生委員会	指導寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設(栄志西集金室)
毎週日曜日	寮生会役員会	寮生会役員	豊田工業高等専門学校学寮施設(メディアルーム)
地域交流事業	豊田高専DMタウン	DMタウン参加学生	豊戸

低学年または留学生関連行事

低学年教育

平成27年度から実施したことを平成30年度の年度計画においても継続的に実施した。平成27年度から低学年への教育の充実を目的として、前期は学生の状況に応じて1年生、2年生、そして3年生以上と学年別のアセンブリを実施してきた。後期は、学生生活・学寮生活に慣れた頃であるため、指導する内容が大きく隔たることもなくなり、1年生と2年生を一緒にして低学年を対象のアセンブリとして実施した。寮での生活サポートを行う指導寮生と班長については、担当学年の寮生が参加する方に参加した。アセンブリでの内容は、睡眠を含む生活リズム、学習習慣、盗難予防のための施錠、学校周辺への配慮事項、所在確認のための各種書類提出の方法、5年寮生の話（就職、進学、高専生活、趣味など）、各委員会からの伝達事項などであり、寮のルールについてだけではなく、生活マナーについての教育も行ってきた。特に新1年生に対しては、高専生としての基本的な心構え、知識、生活習慣を身につけさせることを目指してきた。指導学生からの話は、教員以上に低学年寮生への教育的価値があり、年齢が近い学生からのアドバイスは低学年の生活サポート、日々の学生生活、そして人格形成に大いに役に立った。指導学生にとっては、将来エンジニアのリーダーとして活躍するためのリーダー研修の意味合いもある。海外からの留学生に自国の文化や生活の紹介をしてもらうことも行い、低学年寮生が異文化に触れる機会となった。アセンブリ以外に、指導学生が中心となって寮内運動祭を企画・実施し、寮生相互の親睦を深める機会を作った。平成27年度からのこれらの試みの結果、高学年（3年生以上）になっても学寮にとどまり運営に協力を希望する学生の数が増え、指導学生の希望者が増加した。このようにしてリーダーとして社会に貢献できる学生の育成に役立っている。

留学生との交流

豊田高専では、毎年3~4名程度の留学生を迎えており、現在10名を超える留学生が寮で生活をしている。平成27年度は担当チューターに留学生の生活サポートは一任されており十分なサポートが行えなかった。平成28年度は、高学年男子寮-創志寮-の各階に留学生を配置し、学科を超えた留学生のサポート活動と交流を行ってきた。国際交流を計画的に行うために留学生交流パートのリーダーを選出し、リーダーを中心に交流を行った。平成29年度はそのグループを留学生交流パートとして学寮における各種委員会と同等との見方をして、留学生支援のさらなる組織化を試みた。そして平成30年度には、留学生交流パートをGlobal Friendship Agency (GFA)という名称の正式な委員会に昇格させた。夏にはGFAのメンバーが企画し、留学生と協力して異文化交流イベントをおこなった。そのイベントでは出身各国の料理を作り、寮生に試食の機会を提供した。GFAはまた、留学を考えている低学年寮生に対する留学説明会を開催した。また、ここ数年継続しているバドミントン交流はスポーツを利用した交流であり、GFAに所属する高学年寮生、チューターが時間を調整して月1回2時間実施した。そのため、留学生との人間関係が親密になり学校生活全般で協力して生活できるようになっている。また、異文化を理解する機会を得ることにもなり、ものの考え方や生活習慣の違いを理解し国際的な感覚の育成にも役立っている。

4.2 今後の予定

寮務運営委員会では、継続的に低学年指導の充実と留学生との交流を通じた国際的感覚を持った高専学生の育成を重点的に行う予定である。今後は、より充実した教育を達成するために、寮務運営委員会だけでなく、1年生担任学年団、2年生担任学年団と情報を共有・連携し協力して教育を行って行く必要がある。学年団からは生活リズムを整えることと共に学習時間の確保が意見として上がっている。学寮における時間の使い方等の見直しを行う。また、寮内での学習環境の整備を継続して行っていく。

また、平成30年度に留学生交流パートから発展した国際交流のための委員会であるGFAを中心に、寮生の国際交流への参加や留学生の学習生活のサポート活動を継続して行っていく予定である。

5. 研究活動に関することに関すること（担当：総務主事）

5.1 外部資金獲得の促進に係る取り組み

外部資金獲得の促進に向けて、以下の活動を実施した。

- ① 科学研究費補助金の申請に係る「学内説明会」を開催した（説明者：総務主事）（開催日：9月19日）。【内容】今回の変更点、留意事項、作成のポイント、申請の流れなど
- ② 科学研究費補助金の獲得に向けた「特別講演会」を開催した（開催日：10月10日 16時15分～17時00分 記念会館会議室にて）。
- ③ 公正研究推進協会が提供している研究倫理教育eラーニング教材「eAPRIN」の受講に向けた説明会を実施し、当該講座の受講を依頼した（開催日：9月19日）。平成31年1月～3月に、全教員・技術職員が受講した（嘱託・再雇用・非常勤職員を除く）。
- ④ 総務企画係において、全国の多分野における助成金情報を日常的に収集し、本校に関係のある情報を選択した上で、グループウェアを通して全職員に発信している。

5.2 産業界との技術マッチングの推進

産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究を促進するとともに、効果的な技術マッチングを推進するために、以下の活動を実施した。

- ① とよたイノベーションセンター主催の技術セミナーにおいて、本校の技術シーズを発信した。
- ② とよたイノベーションセンターで受ける技術相談においては、技術マッチングの可能性を考えながら対応している。
- ③ 地域のものづくり企業を訪問し、各社の技術課題を調査するとともに、技術マッチングの可能性を探っている。
- ④ 愛知銀行・豊田信用金庫といった地域の金融機関と連携し、地域企業の技術課題を調査している。
- ⑤ 豊田地区最大の技術展示会である「とよたビジネスフェア」に出展し、産業界との技術マッチングの機会をもった（開催日：3月21日～22日、会場：スカイホール豊田）。
- ⑥ 愛知銀行ビジネス商談会に参加し、産業界との技術マッチングの機会をもった（開催日：10月24日、会場：名古屋国際会議場）。

5.3 研究成果の知的資産化

研究成果の知的資産化と活用に向けて、以下の取り組みを行った。

- ① 日本弁理士会東海支部と連携し、学内にて、「知的財産講習会」を開催した（開催日：12月5日 15時00分～16時30分）。

5.4 外部資金の獲得

平成30年度の外部資金獲得額の一覧を表5.4に示す。「共同研究」の額が少ないが、本校では、産業界や自治体との連携を、「受託事業」「寄附金」といった形態で実施するケースが多く（それが本校の外部資金獲得の特徴でもある）、それらを合計した額4400万円以上に上っている。

表 5.4 平成30年度外部資金獲得額一覧

区分	金額
科学研究費（代表）	26,650,000円
科学研究費（分担）	2,665,000円
共同研究	4,556,000円
受託研究	1,080,000円
受託事業	22,450,000円
寄附金	12,948,983円
その他助成金	749,521円
合計	71,099,504円

6. 国際交流に関すること

6.1 海外からの留学生（担当：国際交流委員長）

海外からの留学生のうち、平成30年度に新たに第3学年に編入学した外国人留学生は、マレーシアから機械工学科に1名とモンゴルから建築学科に2名の計3名である。これにより、平成30年度は、マレーシア政府派遣による外国人留学生6名、モンゴル政府派遣による外国人留学生2名、文部科学省国費による外国人留学生4名〔モンゴル(2名)、カンボジア(2名)〕、合計12名（うち女子3名）の外国人留学生が学んでおり、そのほとんどが学寮で日本人学生とともに生活している。

4月に新規外国人留学生歓迎会を実施し、チューター・寮生会・学生会や教職員との交流を図った。また、外国人留学生懇談会を年6回実施し、主に外国人留学生の学寮における生活面の支援を行った。さらに、外国人留学生とチューター及び教職員の交流のため、本校体育館にてレクリエーション交流を7回実施した。平成30年度から、学寮内に国際交流委員会（GFA）が発足したため、GFAの学生にもレクリエーション交流に協力してもらっている。

例年10月には、外国人留学生とチューターが現地視察や見学を通して日本文化の共有を図り、相互理解を深めるため、研修旅行を実施しているが、平成30年度は東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会の主管校でもあったため、両方を兼ねて12月に実施することになった。東海地区国立高等専門学校外国人留学生交流会では、12月23日～24日に初めての試みとして豊田市で開催した。本校主管ということもあり、本校からは外国人留学生11名と教職員10名が参加し、日本文化体験やトヨタ自動車の見学などを通して、他の高専の留学生とも交流を深めた。

また、平成28年度より豊田市国際交流協会ボランティア「オープンハート」の協力を得て、外国人留学生の希望者に対しホームステイを実施しており、平成30年度も1月に5名の外国人留学生がそれぞれ日本人の家庭生活を体験した。

各学科や学寮の受け入れ可能人数から考えて、外国人留学生の受け入れを大幅に増やすことはできないが、現状の人数を維持しつつ、交流の内容を充実させていく予定である。

6.2 留学へ行く学生（担当：国際交流委員長）

留学へ行く学生は、過去5年の実績で表6.2のようになっている。平成30年度も、AFS、YFUといった団体を利用した長期海外留学に行く学生（1～3年生）が多く、34名の留学を許可した。実際にこのプログラムに申請した学生はもっと多い状況であり、国際交流委員会で基準に基づいて審査し受験許可を与えている。それ以外に、豊田市による英国ダービーシャー市派遣にも毎年申請があり、平成30年度も2年生1名が参加している。さらに、本校が平成22年度から提携を結んでいるドイツ・アーヘン専門大学へは、私費で平成30年10月から約1年間の予定で4年生が2名留学している。

近年本校を休学して私費で留学する学生も存在しており、外国の他大学との協定を結び、長期休暇中に学生が留学できる機会を増やしたり、海外インターンシップに参加する学生を増やしたりすることが今後の課題となっている。

表 6.2 過去5年における海外留学人数一覧

	26	27	28	29	30
AFS、YFUを利用した 長期海外留学(低学 年対象)	38	32	45	30	34
トビタテ！留学 JAPAN	0	1 (専攻科)	1	1	1
英国ダービーシャ ー市(低学年対象)	1	1	1	1	1
ドイツ・アーヘン専 門大学(高学年・専 攻科対象)	0	0	0	1	2
海外インターンシ ップ(高学年・専攻 科対象)	1 (専攻科)	3 (専攻科)	0	0	0
その他(休学による 私費留学)	2	3	5	0	1

6.3 海外インターンシップ(担当：専攻科長)

海外インターンシップ(JSTS, ISTSへの参加を含む)に参加した学生は、表6.3-1のようになっている。H28専攻科企画・管理室会議にて議論を重ねたが(H28.4.1, 4.18, 4.25, 5.9, 5.23, 6.27各議事録)、現状の海外インターンシップには、参加経費(学生負担)が高額で、実施時期(本校の授業と重なり、休学が必要な場合もある)にも問題があるため、参加者数増加は難しいと判断している。

表 6.3-1 海外インターンシップ参加数

年度	H26	H27	H28	H29	H30
人数	1	3	1*	1*	1*

* JSTS, ISTS への参加

7. 社会との連携に関すること（担当：総務主事）

7.1 公開講座・出前講座の実施

平成 30 年度に実施した科学技術啓発活動は以下のとおりである。これらの実績については、「産学連携・地域活性化推進委員会」（令和元年 5 月 27 日開催）において、公表され、学内への周知が図られた。

- ① 年間 11 件の公開講座を開催した。受講者の合計は 247 名、申込者合計は 387 名であった。参加者アンケートの結果、9 割の参加者が「満足した」と回答した。
- ② 年間 29 件の出前講座（県内の小中学校に出向いて講座を実施）を行った。訪問した小中学校の場所は、西三河地区にとどまらず、名古屋地区・尾張地区・東三河地区といった県内全域にわたっている。
- ③ 各種イベントへの参加を通じた科学技術啓発活動も 2 件あった。

7.2 産学連携実践セミナーの実施

「産学連携実践セミナー」は、企業と連携した共同教育の実践であり、企業の技術者と本校の学生が協力して産業界の課題に取り組む。平成 30 年度は、以下の 3 社と共同教育を実施した。

- ① 小島プレス工業株式会社（参加学生：機械工学科 1 名）
- ② 新明工業株式会社（参加学生：機械工学科 1 名）
- ③ トヨタすまいるライフ株式会社（参加学生：建築学科 7 名）（完成披露会を 3 月 28 日に現地（長久手市）にて開催）

7.3 産学連携によるリーダー技術者養成講座「ものづくり一気通観エンジニアの養成」の企画・運営

本講座は、企業の技術者と本校の専攻科生が混成チームを構成し、製造設備（ロボットによる自動組み立て装置）の開発を通して、ものづくりを俯瞰できるリーダー技術者を養成しようとするものである。毎週水曜日 1 日の講座を年間 30 回にわたって、本校地域共同テクノセンターを拠点として実施する。

平成 30 年度は、企業の技術者 10 名と専攻科学生 16 名の計 26 名が参加した。

7.4 産学連携による社会人向け夜間講座「製造技術者育成講座（基礎）」の開講

本講座は、高専教員が主に講師を務め、製造現場で必要となる基礎的な知識について、豊富な演習をベースに展開する、テーマ別の実践的な講座である。1講座あたり、夕方17時から30時までの3時間を10回実施する。会場は、地域共同テクノセンターを利用する。

- ① 「機械製図の基礎」(1回目)[定員20名]：受講者数21名(修了者数21名)
- ② 「機械製図の基礎」(2回目)[定員20名]：受講者数19名(修了者数16名)
- ③ 「生産設備制御・保全技術」[定員20名]：受講者数20名(修了者数19名)
- ④ 「電気・電子回路およびセンサー基礎」[定員10名]：受講者数12名(修了者数12名)
- ⑤ 「機械加工と計測評価技術」[定員15名]：受講者数13名(修了者数13名)

7.5 産学連携による社会人向け研究会「IoT研究会」の企画・運営

IoTに興味のある企業技術者が月に1回集まり(登録制)、各社の取り組みの紹介や、技術セミナーの開催、発表会、工場見学等を行っている。会場は、主に、ものづくり創造拠点「SENTAN」を利用している。年間12回のイベントを開催し、のべ210名の企業技術者が参加した。

7.6 中山間地活性化プロジェクト「ドミタウン」

「ドミタウン・プロジェクト」は、豊田市の笹戸地区の廃旅館を拠点として、寮生活のしぐみを取り入れた様々な企画を立案し、実施していく本校独自の中山間地活性化プロジェクトである。平成30年度は、年間で12件のイベントを企画・運営し、学生・保護者・教職員合わせて、延べ約400名の参加があった。

8. 学校運営に関すること

8.1 本科入学者の質・数の確保（担当：教務主事）

平成 31 年度の本科入学試験の志願者数と合格者数を表 8.1-1 に示す。本件は、2 回の入試委員会（H31/2/5）・（H31/2/19）で報告・審議された。推薦の志願者数および全志願者数は 30 名程増加した。また、女子学生の入学者数が初めて 50 人台になった。愛知県の中学 3 年生の人口が減っていることを考慮すれば、志願者確保の対策に大きな問題はないと言える。

表 8.1-1 平成 31 年度の本科入学試験の志願者数と合格者数一覧

学 科 名		機械工学科		電気・電子システム 工学科		情報工学科		環境都市工学科		建築学科		計	
志 願 者 数	推 薦	46	(7)	57	(9)	86	(11)	46	(9)	44	(29)	279	(65)
	学 力	40	(1)	36	(1)	45	(4)	36	(5)	37	(10)	194	(21)
	合 計	86	(8)	93	(10)	131	(15)	82	(14)	81	(39)	473	(86)
倍 率		2.2	倍	2.3	倍	3.3	倍	2.1	倍	2	倍	2.4	倍
合 格 者 数	推 薦	13	(3)	13	(2)	13	(4)	13	(4)	12	(9)	64	(22)
	学 力	30	(2)	31	(7)	29	(3)	30	(3)	30	(13)	150	(28)
	合 計	43	(5)	44	(9)	42	(7)	43	(7)	42	(22)	214	(50)
入学辞退者数		0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)
入学予定者数		43	(5)	43	(9)	42	(7)	43	(7)	42	(22)	213	(50)

() は内数で女子を示す。

平成 31 年度入学生の新入生学力試験（問題は過去数年間同じ）の結果を表 8.1-2 に示す。この結果については、教務委員会（H31/5/15）で報告・審議した。まず、平成 30 年度と比較すると、全体的に平均点が上がった。ただし、英語に関しては、最低点が 4 学科で 50% を下回っていることが問題点として挙げられた。

過去 5 年間の合計点を比較すると、今年度は昨年度を上回り、過去最高となった。したがって、入学生の質は確保されていると言える。

春休み課題の提出状況の悪い学生を含めて成績等の悪い学生については、これまで同様、指導教員を中心に指導してもらうこととした（指導教員会議（H31/5/8））。

表 8.1-2 平成 31 年度新入生学力試験結果および過去 5 年間の合計点の推移

		1 M	1 E	1 I	1 C	1 A	学年全体
国語	平均点	77.4	79.3	80.5	75.5	77.0	77.9
	標準偏差	9.5	7.7	8.1	9.9	8.3	8.8
	最高点	96	97	96	94	95	97
	最低点	57	64	54	58	60	54
数学	平均点	84.0	85.5	91.9	88.4	85.6	87.0
	標準偏差	10.7	10.5	7.2	9.7	9.9	9.9
	最高点	100	100	100	100	100	100
	最低点	63	56	72	65	57	56
英語	平均点	72.9	75.1	77.5	70.7	65.6	72.3
	標準偏差	11.2	10.6	10.9	11.5	11.6	11.7
	最高点	94	100	97	92	96	100
	最低点	36	49	53	47	44	36
3 教科合 計	平均点	234.3	240.0	250.0	234.6	228.2	237.3
	標準偏差	17.7	17.3	19.7	21.2	21.3	20.6
	最高点	272	273	282	271	275	282
	最低点	191	194	202	181	188	181
3 教科合 計（過去 5 年間）	H31	234.3②	240.0②	250.0①	234.6①	228.2③	237.3①
	H30	236.3①	233.9⑤	237.4③	228.4②	231.9①	233.6②
	H29	226.8⑤	238.6③	241.4②	226.9③	230.8②	232.8③
	H28	230.9④	235.0④	229.9⑤	219.8⑤	220.0④	227.2⑤
	H27	231.4③	243.0①	233.9④	226.1④	217.3⑤	230.4④

8.2 専攻科入学者の質・数の確保（担当：専攻科長）

本年度専攻科入学者の選抜状況を表 8.2-1 に示す。本校では、認証評価において専攻科入学者が定員を大幅に超えているとの指摘を受けることを懸念し、専攻科合格者を定員の 1.5 倍（30 名）以内に厳しく抑えてきたため、過去 3 年度の入学者は 21～25 名で推移し、専攻によっては定員を下回ることも散見される。平成 30 年度の認証評価では、そのような（数値設定による）指摘を受ける心配がなくなったため、入学者数の安定確保にむけて、2020 年度から英語の試験を TOEIC に切り換える等の施策を検討した。

表 8.2-1 専攻科入学試験の志願者数、合格者数と入学者数

年度		H29 年度	H30 年度	H31 年度
志願者数	推薦	18	15	18
	学力	27	18	14
	合計	45	38	32
倍率		2.3	1.9	1.6
合格者数	推薦	18	15	18
	学力	11	11	9
	合計	29	26	27
入学者数		22	21	25

専攻科入試合格者の平均点を表 8.2-2 に示す。推薦入試合格者の評定は 3.5～3.9 で優秀である。学力入試合格者の平均点も、英語、数学で 50 点以上、専門で 100 点以上であり、入学者の基礎的な学力は確保できていると判断している。

表 8.2-2 平成 31 年度専攻科入学試験の結果

合格者平均点		電子機械	建設工学	情報科学
推薦入試	評定	3.6	3.5	3.9
学力入試	英語*1	- (2)	83 (3)	64 (1)
	数学	68	94	89
	専門*2	123	156	109

*1 内数は免除者数（TOEIC 400 点以上）で、電子機械の合格者は全員免除

*2 専門は 200 点満点

8.3 教員の質の確保

1) 常勤教員に関して（担当：教育改善推進室長）

教育改善推進室では、本校教員の資質向上、授業改善を目的として、教育改善の PDCA サイクルとして、授業改善のためのアンケートを前学期、後学期全ての授業科目において

実施した。そして、アンケート結果に対する対応策を担当教員が作成し、アンケート結果と合せて学内で公開するとともに、対応策を次年度の授業で説明した。

現在の授業アンケートは、平成21年から22年度に、「授業評価のアンケート」の問題点の分析が行われ、それらの分析の結果を踏まえて「授業改善のためのアンケート」と改題し、改善を行うための資料となるように質問内容の見直しが行われている。そこで本年度、授業改善のためのアンケート結果の分析を行い、その分析結果を各科へフィードバックした。分析では、概ねアンケート数値は横ばい、高い方向になっており、FD活動の成果が得られている。一方、平成28年度高専機構監事監査において、「学生にとっては多くのアンケートに一時期に集中して回答しなければならないこと」、また、「アンケートは自由記述も含めて手作業で集計していることから、多大な労力がかかっている」との指摘を受けている。これについては、平成29年度から数科目の授業について試行的に簡易的なwebによるアンケートを実施し、本年度も実施している。また、各高専での授業アンケートの実施方法についてアンケート調査を行い、今後のwebによる授業改善のためのアンケート実施方法について検討を行った。高専へのアンケート結果から、webによる未実施の高専も少なくなく、webで実施している高専においてもwebアンケート運用のために多大な経費や労力が掛かっていることを確認できた。現在、学内で整備された学内WiFiの運用準備や高専機構で計画されている教務システム（名称不明）の構築と本格的な運用が図られた後に、そのシステムとの連携も図りながらwebによる授業アンケートの運用を行った方が良いという結論に至った。

また、教員相互に授業を聴講する「授業公開」を、前学期：6月18日（月）～6月29日（金）、後学期：11月26日（月）～12月7日（金）の各2週間行い、延べ127件の聴講を行い、相互に授業を聴講し、授業改善に努めている。授業に対する学生からの生の声を聴く機会として、これまで学生会や寮生会役員と「授業に関する学生との対話会」を行っていたが、本年度は幅広く多様な学生からの意見聴取をするために、対象を1年生から4年生までの各クラスから選出された学生に変更し、11月14日（水）に「授業に関する学生との対話会」を実施した。対話会での学生からの意見をまとめ、各学科にフィードバックし、授業改善に努めている。

一方、教育、指導の質の向上のため、新任教員交流会を6月14日（木）、7月26日（木）、と2月18日（月）に開催し、学生の教育、指導方法や教授法について情報交換を行った。また、アクティブラーニング・ルーブリックへの研修に教育改善推進室教員を派遣し研修内容の報告があった（5月30日）。第3ブロックAL推進研究会（5月27日、11月27日、3月8日は卒業判定会議のため不参加）に参加した。とくに、名古屋大学で開催された、全国高専フォーラム（8月20日～22日）及び第3ブロックAL推進研究会（8月21日）に教務主事グループが参加し情報収集を行った。

卒業して10年目の卒業生（既卒）と卒業生ならびに修了生の卒業前アンケート、就職先企業へのアンケートを実施し、本校における教育方法、環境等について調査結果をまとめ、それを各科へフィードバックして教育改善に努めている。これまでの企業アンケート質問項目は、経団連の企業が求める人材の項目に合わせる内容とした。これにより、他機関の調査結果との比較も可能になると考える。アンケート結果では、専門性については、

期待値より上の評価をえているものの、協調性などの社会性への要求が高く、期待値沿えていない結果となっている。

FD シンポジウム（中学校における先進教育の現状と題して、中学校教員を講師に迎えて）を11月21日（水）に開催し、中学校で先進的に行われている英語と理科教育を聴講し、意見交換を行った。

2) 新規採用教員に関して（担当：教務主事）

平成30年度後期以降に4名の教員を採用した。内訳は、一般学科（社会）1名、環境都市工学科2名および建築学科1名である。書類審査等は例年通り行い、候補者を決定した。各学科長が作成した各候補者の人事書類を基に、3回の教授会（H30/9/7）

（H30/10/23）（H31/2/22）で報告・審議した。新規採用した教員の出身機関（高校、民間企業、他高専、地方自治体）はすべて異なっており、多様な教員を採用できていると言える。

8.4 予算・決算について（担当：財務補佐）

総務会議（30/5/15）において校内予算の配分を審議・決定した。高専機構からの予算配分はKOSEN4.0をはじめとする特別教育研究経費等の使途が特定された予算は増額している。しかしながら、中期計画の運営費交付金算定ルールに基づき、対前年度1%減（一般管理費については3%減）の効率化は適用され、引き続き厳しい財政状況が続いているが、校長裁量経費や教育研究実施経費等の確保に努めた。校長裁量経費では、公募型の教育研究プロジェクト経費やインセンティブとなる教員顕彰経費の配分など、教育研究活動を一層活性化させる取組を実施した。また、一定の条件で教育研究予算を翌年度に執行できる制度を設け、より効果的な予算執行が可能となる取組を実施したことにより外国での研究発表等の教育研究活動に繋がっている。

高専機構では財務会計システムで予算管理等を一元管理しており、各予算の担当者が執行状況等を随時確認することができる。加えて執行状況を総務会議で報告し、計画的な執行を呼びかけている。1月末までに年度内の執行計画の入力を完了させ、全体の執行残額を早期に把握することにより、予算不足により留保していた施設の営繕工事を実施するなどし、特に本年度は省エネ効果が期待される講義棟及び第1体育館の照明についてLED化工事を実施した。

なお、平成30年度末の貸借対照表は表8.4-1のとおりである。

表 8. 4-1

貸借対照表(平成30年度)

(単位:円)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	5,664,483,637	[負債の部]	774,495,219
流動資産	34,138,736	流動負債	155,981,584
現金及び預金	32,958,985	預り寄附金	25,487,355
現金	7,800	未払費用	11,966,984
普通預金	32,951,185	前受金	4,035,000
未収入金	1,080,000	預り金	39,055,353
前払費用	99,751	固定負債	618,513,635
固定資産	5,630,344,901	資産見返負債	582,126,901
有形固定資産	5,626,190,053	資産見返運営費交付金等	545,461,966
建物	4,022,131,329	資産見返運営費交付金	422,942,185
建物	2,686,735,085	資産見返授業料	122,519,781
建物附属設備	1,335,396,244	資産見返補助金等	8,894,809
建物減価償却累計額	▲ 2,063,591,743	資産見返寄附金	22,970,066
構築物	367,708,780	資産見返物品受贈額	60
構築物減価償却累計額	▲ 257,050,998	建設仮勘定見返施設費	4,800,000
車両運搬具	9,960,922	長期預り寄附金	4,971,692
車両運搬具減価償却累計額	▲ 8,775,168	長期未払金	31,415,042
工具器具備品	1,208,049,000	[純資産の部]	5,005,388,007
工具器具備品減価償却累計額	▲ 1,093,042,069	資本金	5,352,971,664
土地	3,436,000,000	政府出資金	5,352,971,664
建設仮勘定	4,800,000	資本剰余金	▲ 347,583,657
無形固定資産	4,154,848	資本剰余金	2,288,468,521
特許権	512,374	損益外減価償却累計額	▲ 2,458,508,612
ソフトウェア	3,621,474	損益外減損損失累計額	▲ 119,000
電話加入権	21,000	損益外固定資産除売却差額	▲ 177,424,566
[本支店勘定]	115,443,240		

平成30年度の決算は表8.4-2のとおりである。高専機構から配分される運営費交付金及び自己収入等を基本財源として運営されている。自己収入については表8.4-3のとおり継続的に安定した収入を確保している。

表 8. 4-2

決算報告書(平成30年度)			
		(単位:円)	
[収入額]		[支出額]	
区分		区分	
運営費交付金	1,208,219,551	人件費	1,150,407,534
施設整備費	4,800,000	物件費	398,343,395
授業料・入学料及び検定料	283,274,177	施設整備費	4,800,000
雑収入	12,814,936		
外部資金	45,184,325		
その他補助金	749,521		
合計	1,555,042,510		1,553,550,929

表 8. 4-3

自己収入の状況(平成26～30年度)

(単位:千円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
授業料	254,059	257,075	256,412	253,481	254,424
入学金	20,100	20,523	19,991	20,100	20,414
検定料	8,606	7,649	8,073	8,062	8,436
雑入	13,459	13,027	11,636	11,862	12,815
合計	296,224	298,274	296,112	293,505	296,089

8.5 地域におけるネットワーク形成（担当：総務主事）

豊田市と中心とした地域の大学・産業界との連携組織に加盟し、地域におけるネットワーク形成を図っている。現在、加盟している主な組織を以下に示す。

- ① 豊田市大学等連携協議会
- ② 市長・学長懇談会
- ③ 防災に関する連携協定
- ④ 豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム
- ⑤ 豊田市つながる社会実証推進協議会
- ⑥ 愛知県産業人材育成連携会議
- ⑦ 中部イノベネット

9. 将来計画に関すること（担当：総務主事ほか3主事）

10. 施設整備に関すること（担当：施設環境整備委員長）

10.1 現状

キャンパスマスタープランは、2014年度に作成し、3年ごとに見直すことになっているため、2018年度にキャンパスマスタープラン作成WGを設けて、改訂版を作成した。

しかし、機構から「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画2018」の方針が示されたため、2019年度にキャンパスマスタープランを全面的に新しくすることになった。

施設係は、新任の施設係長と施設係員、図面担当の補佐員の3名体制であったが、オーバーワークなどの原因で、施設係長や施設係員が体調を崩して病気休暇を取る時期もあり、年度末には新任の施設係員を2ヶ月早期に雇用した。

<概算要求工事>

本年度に実施する概算要求工事はなかった。

12月頃に、概算要求してきた「ものづくり工房棟の新営工事」が、2018年度の補正で予算化される予定であることが分かり、「ものづくり工房棟増改築WG」を立ち上げて、建物の各部屋の用途や必要な機能などについて詳細に検討されている。

<営繕要求>

本年度に実施する営繕要求工事はなかった。

学内の営繕工事として「照明のLED化」を積極的に実施し、第1体育館と、第1講義棟と第2講義棟の教室を行った。

10.2 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

上記のように今年度も、施設に関係する多くの工事があり、2名の施設係員がオーバーワークとなったため、施設係長や施設係員が体調を崩して病気休暇を取る時期があった。

また、昨年度と同様に、営繕要求工事の機構による評価が低く、この理由として、キャンパスマスタープランの見直しが不十分であった点が指摘され、改善の必要性が有ると思われる。

11. その他